



「わらしなてくてくマップ」編集作業の



「わらしなてくてくマップ」での活動の

公民館の沿革・年表

- ・平成 元年 静岡市藁科公民館開館
- ・平成 3年 静岡県公民館連絡協議会
優良公民館表彰受賞
- ・平成20年 静岡市藁科生涯学習センターへ名称変更
- ・平成21年 指定管理者制度導入
- ・平成25年 「藁科てくてくマップをつくろう」講座実施及び
～平成29年 「わらしなてくてくマップ」1～5号発行
- ・平成30年 「わらしなてくてくマップ」展示会及び報告会
- ・平成31年 優良公民館等静岡県教育長表彰受賞

左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

◆「藁科てくてくマップをつくろう」事業の様子
 当事業では、地域住民の案内のもと、講座に参加した市民が地域の歴史や言い伝えなどを取材した。地域の人に聞かなければ知りえない情報を得ることができた。取材を受ける地域住民にとっては「地域の魅力の再発見」、取材する市民としては「地域文化を見る・聴く・ふれる」機会になった。取材後は、「マップを手にした人が藁科地域に来てみたいと思うか」という視点のもとマップの編集を行い、「わらしなてくてくマップ」と題して5年間で15地域を取り上げ、全5号を発行した。

1. 都道府県名	静岡県	3. 公民館対象人口	28,661人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	静岡市葵区	4. 建物設置年月日	平成1年3月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（公益財団法人静岡市文化振興財団） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2,334人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 19,707人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人（ ）				合計 22,041人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人）				合計 8人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（藁科生涯学習センター運営委員会）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（同敷地内に保健福祉センター、市民サービスコーナー） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（複合施設である利点を活かし、毎月のイベントニュースの発行や、文化祭などの連携事業の実施。）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 服織学区自治会連合会、服織地区社会福祉推進協議会、服織中学校区小中一貫教育運営協議会、服織中学校区青少年健全育成会、静岡音楽館、静岡科学館、静岡市美術館				

静岡市藁科生涯学習センター

OPEN 9:00～21:30
TEL 054-278-4141

HP <https://sgc.shizuokacity.jp/>
SNS Twitter、Facebookともに @shizuoka_sgc





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

静岡市の北西に位置する藁科地域は、人口増加傾向にある服織地域と従来の農山村地域（奥藁科）を内包する地域である。藁科川を中心に広がる地域は周囲の山々等の自然が充実しており、歴史的な「名所・旧跡」も豊富に残る地域で、山間地域ならではの伝承、生活文化が残っている。しかし近年、住民の高齢化や過疎化、核家族化等の社会変化の中で、地域文化の伝承が困難となっている実態が見受けられる。そのような状況の中、地域文化の発掘を行い、情報の収集及び保存・発信に重点を置いた事業を行うことが重要であると考えた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【わらしなステキを歩いてつなぐてくマッププロジェクト(地域資源を活用したまちづくり)】

●上記の要因から平成25年度から5か年計画で、地域住民の案内のもと、講座に参加した市民が藁科川流域の地域の歴史や文化について取材した内容をマップにまとめ情報発信するプロジェクトを実施した。歴史ある寺社仏閣、藁科川の美しい風景、美味しい地場産品や各地に自生する植物、富士山の絶景ポイントなど、講座に参加した市民それぞれの視点で地域の魅力を探したことで、バリエーションに富み、地域の魅力をふんだんに盛り込んだマップが完成した。5年間で15地域を取り上げ、全5号を発行した。

●案内を各地域の住民に依頼したことで、その地域の住民しか知りえない貴重な情報を得ることができ、案内者自身にとっても地域の魅力を改めて見直す機会となった。加えて地域住民が今まで培ってきた能力や知恵を外部に還元し、他者に必要とされることが「生きがい」に繋がり、地域の活性化の一助とすることができた。

●平成30年度には5か年の取組・成果について地域内外へ広く報告する為、「藁科地域マップ作り報告会」と「てくてくマップ展示会」を開催した。報告会ではマップ制作を振り返りながら、藁科地域の魅力について語り合った。展示会では白地図上に取材したメモや写真を添付して、5年間分の取材内容を紹介した。平成30年度以降もマップを活用したウォーキング講座等を行い、藁科地域の魅力を体験、学習できる講座を継続している。



地域取材時の様子



展示会でのパネルの一例

3. 取組による成果や効果

【活動による成果・効果】

- マップという形で記録・可視化することにより、情報の収集及び保存・発信することができた。またマップのデザインや紙質にも配慮し、保存性の高い資料とすることができた。
- 地域住民を巻き込み自発的活動を促すことで、まちづくり、人材育成に繋げることができた。
- 地域の魅力を再発見し、伝統文化や景勝保存の意識を高めることができた。

【これまでの取組全体による効果・成果】

- 生涯学習センターを拠点とした人的ネットワークが構築され、史跡や、その整備状況などを確認できるようになり、藁科地域の情報発信の拠点として機能している。
- 各自治会や地域団体と地域の課題を共有し、良好な関係を構築することができた。



完成したマップを手に記念撮影

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 近隣小中学校長、自治会関係者、利用団体代表等7名で構成する生涯学習センター運営委員会を年間2回以上開催。センターの現状や課題、改善点等を議論し、地域の団体と協力・連携したPDCAを意識した運営を行っている。
- 「利用者の声アンケート」や「講座受講者アンケート」を実施。調査結果を検証し、事業計画に反映している。
- 地域学校協働活動については中学校区小中一貫教育運営協議会で行っている。(センター長が委員として参加)

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

人が集い、学び、その成果が新たな学びをもたらす、成果を活かすことで、生き生きとした街になることを目的とした活動の地域拠点となる。また、少子高齢化等様々な理由により、地域コミュニティの役割は拡大しており、地域課題の把握と解決に向けた取り組みを行い、市民主体のまちづくりを推進する地域人材の育成を推進することで、地域コミュニティの核となる施設を目指す。



文化祭ステージ部門の様子

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

1)学び（新たな知識、経験がいつでも得られる生涯学習センター）、2)地域（地域とともにある生涯学習センター）、3)集い（世代を超えて集い、活躍できる生涯学習センター）、4)人材育成（市民主体のまちづくりにおける人材育成と支援）の4つの重点方針を設定し、その実現に努める。



地域団体との共催事業の様子

歴史の継承～人が繋がり、故郷を慕う～



歴史講座

島田市伊久身農村環境改善センター

公民館の沿革・年表

昭和57年に着工し、昭和59年10月15日に開館した。農林水産省の農村総合整備モデル事業の一環として、農業経営および農家の生活改善、農業者等農村在住者の健康増進、地域連帯感の醸成、他産業就業者研修等農村環境整備を組織的に推進する場として設置した。平成8年4月1日から施設の管理運営を教育委員会が行うこととなり、社会教育の振興を図るとともに社会福祉の増進に寄与するため、公民館類似施設としての事業も実施し、現在に至る。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

社会教育講座の一部として開催された歴史講座的一幕。NHK大河ドラマの放送をきっかけに、静岡県郷土の武将である今川氏とこの伊久身地域に深い関わりがあることを知り、地域住民から各集落に古文書や城・史跡が残る“我がまちの魅力”を改めて学びたいという機運やニーズが沸き上がり、住民有志とセンター職員、博物館学芸員が協力して講座開催に至った。また、地域住民以外にも広く参加者を募っており、伊久身地域の歴史を共に学ぶとともに、地域間・世代間を超えた交流を深めるきっかけとなっている。

1. 都道府県名	静岡県	3. 公民館対象人口	731人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	島田市	4. 建物設置年月日	昭和59年10月15日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会)	<input type="checkbox"/> その他 ()		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	199人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	541人	合計 1,196人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	456人	(地域・コミュニティ活動)		
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任	0人	<input type="checkbox"/> 兼任	0人	合計 2人
	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人		<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人		
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (農村環境改善センター運営委員会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input type="checkbox"/> 子ども食堂	
	<input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	
	<input type="checkbox"/> ICTの活用	<input type="checkbox"/> 防災	<input type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (社会教育講座)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
		<input checked="" type="checkbox"/> その他 (デイサービスセンター)			
	<input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input type="checkbox"/> 行政機関	
	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他	
	<input type="checkbox"/> ()				

島田市伊久身農村環境改善センター

OPEN 8:30~21:30

TEL 0547-39-0002

H P <https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/ikuminousonkankyoukaiz.htm>

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

島田市伊久身地域の住民は、同地域の歴史への興味や地元への愛着も深い。高齡化が進み、情報の発信力が弱く、地域の活性化がなかなか進まない課題があった。NHK大河ドラマの放送をきっかけとして、この伊久身地域が今川氏と関連が深いことを知り、各集落に古文書や城・砦跡が残る“我がまちの魅力”を改めて学びたいという住民の機運が高まってきたことから、市博物館学芸員とともに地域に残る遺構等を巡るフィールドワークや歴史講座を住民有志及びセンター職員が企画した。また、地域の交流を深めるため、歴史講座以外にも料理講座、科学教室、苔玉作り講座等を開催している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

高齡化が進む農山村地域であるが、対象人口731人という小さなコミュニティだからこそその特性を生かし、住民の要望・ニーズをすぐに取り入れるよう工夫しながら、地域住民に積極的な参画を促した取組を行い、地区の活性化や交流、情報発信を行っている。

【力を入れている活動】

地域のことを最も知る地域の人材を活用し、地域に残る城・砦跡、各集落の古文書等の歴史的価値のあるものや文化風習を教材として講座を企画。地域外からも参加者を募り、交流人口の増加、情報発信を図っている。

【特徴的な活動】

地元の人を講師に招いた「苔玉づくり講座」や、住民の要望より生まれた伊久身地域の隠れた魅力を引き出す「歴史講座」を平成29年度から継続的に開催している。

【地域課題解決の活動】

自治会を中心に、地区コミュニティーや伊久身地域の社会福祉の会「やまびこクラブ」（ボランティア団体）等が連携し、住民の交流を支援する活動を実施している。

【運営の工夫】

地域出身者が職員として従事。職員が地域のことをよく知り、地域住民と積極的に関わることを大切にしている。地域との関係づくりが地域資源や人材の発掘につながっている。



苔玉づくり講座



職員による読み聞かせ

3. 取組による成果や効果

高齡化が進み、他地域との交流が少ないという課題があったが、歴史講座やフィールドワークでは、定員の約半数が市外から参加し市民交流のつながりが広がる機会となり、伊久身地域の魅力を発信することができた。センターでの活動を経て培った関係性により、地区のコミュニティ、学校、支援団体等が協力的で、地域のコミュニティ委員会と共催する「やまびこセンターまつり」は地域の一大イベントであり、例年対象人口の1/3にあたる約250人がセンターへ詰めかける。地区住民のほか、他地域・他市に居住している伊久美小学校OBもふるさとを想い、参加している。年齢問わず多くの住民に運営側の役割を持たせるようにしており、特に中学生ボランティアは出店ブースの運営を担い、毎年大活躍している。園児や児童のステージ発表や地域ゆかりの曲の合唱などもあり、ふるさとへの愛着をより一層深めている。



やまびこセンターまつり

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

伊久身農村環境改善センター運営委員会を年2回開催し、地域の代表者や学識経験者を含めた運営委員が、施設運営上の課題のほか、社会教育講座の内容についても意見・情報交換を行っている。また、市内公民館や公民館に類似する施設の施設長による連絡会を年3回開催するほか、職員の資質向上を目的とした施設事務担当者会議を年2回実施し、効果的な公民館事業や活動について情報交換を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

小さなコミュニティの強みとして、地域住民同士や、センター職員も含め、顔と顔が見える関係を常に築くことができている。職員と利用者とのふれあいの中で高齡者の話を聞くことも多く、地域の文化風習とともに、歴史的遺構、高齡者の知恵や経験を、次の世代に継承していくことを大切にしたいと考えている。



防災訓練

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

職員と地域住民、施設利用者との交流の中で、高齡化率の増加について心配する声が多くあった。講座の運営や企画において、中学生がボランティアとして参加し活躍する場を積極的に設けるなど、次世代に地域の魅力を引き継いでいく活動をしていくことで定住人口の維持を図りたい。



中学生ボランティア

持続可能な地域のオアシス

浜松市北浜南部協働センター



「北浜南部協働センターまつり」発表の部



「みどりの探検隊」県立森林公園で活動

公民館の沿革・年表

北浜南部協働センターは平成8年4月に開館、地域コミュニティの拠点施設として、地域住民や各種団体とともに様々な活動を通して、活力ある地域づくりに努めている。

開館年から毎年実施している「北浜南部協働センターまつり」、平成23年度から実施している「浜松市と大学との連携事業」、そして各種講座、子ども講座など住民や学校との協働による地域づくりや社会教育の推進に努めている。

左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

「北浜南部協働センターまつり」

協働センターを活動の場としている団体が日頃の学習成果を発表・展示するほか、地元小学校の児童作品の展示や中学生ボランティアの参加により、幅広い世代の地域住民の交流を図る機会となっている。

「みどりの探検隊」

県立森林公園を活動場所として区内在住の小学校低学年と保護者を対象に、子供たちが自然とふれあう体験を通して、人と自然のつながりを感じる心を育むことを目的とした活動を実施している。

1. 都道府県名	静岡県	3. 公民館対象人口	39,751人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	浜松市	4. 建物設置年月日	平成8年4月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	15台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 688人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 26,144人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 14人 (活動推進委員会)				合計 26,846人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数)				合計 5人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (浜松市社会教育委員会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (証明等の市民サービス窓口を併設) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (浜北区自治会連合会、北浜地区民生委員児童委員協議会、浜北区シニアクラブ連合会、浜北女性の会、交通安全協会、PTA、子供会)				

浜松市北浜南部協働センター

OPEN 8:30~21:30

H P <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/>

T E L 053-585-0510

S N S



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

「学習成果を適切に生かすことのできる仕組みづくり」の取り組みの一つとして、浜松市と大学との連携事業（浜松市が協働センター等生涯学習施設で行われている講座の開催に、知の財産といえる大学生が持つ学習成果を活用し、学生自らが講師となって市民と互いに自己の学びを深めることを目的とし、平成23年度より事業を開始。）を積極的に導入した。コミュニティ・スクール導入に伴い、平成29年度からは大学連携講座を小・中学校の授業や部活動と連携して実施した。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【お芝居プロジェクト（静岡文化芸術大学との連携講座）】

対象は中学生。道具を使わず、体一つで昔話をモチーフにお芝居を作っていく。お芝居作りが目的ではなく、お芝居を作り上げていく過程で行う様々なプログラムや稽古を通して、自己表現の方法を学んだり、コミュニケーション能力を高めたりすることを目的とする。また、大学生と一緒に講座を受講する仲間との交流を通して、他者とのコミュニケーションが苦手な生徒の居場所作りも目的としている。

【自分でできるカラダケア（常葉大学との連携講座）】

中学校の部活動と連携し、部活動の時間に学校を会場に実施。体のつぼの位置やつぼを指圧した際の効能を学んだ上で、日頃から鍛えている自分の体を自分自身でケアする方法と体幹トレーニングの仕方を身に付け、ケガをしにくい体づくりを目指す。

【自分の走力を高めよう（聖隷クリストファー大学との連携講座）】

小学5年生を対象に、体育の授業と連携し実施。運動を通して体の仕組みを知り、科学的に体力・走力アップを図る。実施する前に、学校や学年の状況を踏まえた目標・内容とするために、学校側の要望を聞き、その上で大学と調整を進める。したがって、年度によって内容は異なる。昨年度は「長距離を走るにあたって自分に合ったフォームを身につける」ことを目標に、コーディネーショントレーニング・体幹トレーニング・姿勢と腕振りをポイントにしたランニング（5分間走）などを実施した。



お芝居プロジェクト



体力アップ北浜南小学校

3. 取組による成果や効果

「お芝居プロジェクト」

- ・他者とのコミュニケーションを苦手としている生徒が、相手を理解し交流することができた。
- ・近隣保育園にも出向き、園児の前で活動の成果を披露する等、活動の場が広がった。
- ・講座に参加した卒業生（高校生）が協働センターに遊びに来たり、講座に飛び入り参加したりする等、この講座や協働センターが大切な位置付け（居場所）となっており、講座の広がりが見られた。
- ・大学生が他事業の実行委員となり、講座終了後も協働センターに携わっている。

「自分でできるカラダケア」「自分の走力を高めよう」

- ・学校と地域が連携をより深めることの一翼を担うことができた。
- ・協働センターの活動へ関心を持ってもらうことができ、小学生が子供講座に参加してくれるようになったり、中学生が協働センターまつりのボランティアとして参加してくれたりした。



お芝居プロジェクト講座風景

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

浜北区自治会連合会、北浜地区民生委員児童委員協議会、浜北区シニアクラブ連合会、浜北女性の会、北浜・北浜東部中学校、北浜・北浜東・北浜北・北浜南・伎倍小学校、北浜南部協働センター地域活動団体代表、行政経験者で構成される「活動推進委員会」を開催し、協働センターへの意見・要望をいただいたり、受講者からのアンケートに基づき成果の分析・評価・問題点の洗い出しを行ったりして、地区住民の生涯学習の場として、よりよい地域づくりができるよう努めている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 参加者が地域づくり・仲間づくりができる講座等の提供
- 協働センターがコーディネート役となり連携・協力ができるまちづくりの支援
- 幅広い世代の地域住民の交流の場の提供
- コロナ禍でも安心して利用できる様々な対策（換気・消毒・3密を回避した空間づくり）
- 施設利用者増加の仕組みづくり（地域活動団体・同好会設立支援）



小学生と地域住民でのまちびか運動

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

【協働センターがえり（協働センターを核とした事業への持続的な参加につなげる環境を醸成）】

子ども講座に参加した小学生が、中学生になり協働センターまつりのボランティアに参加し、成人してからもボランティアや実行委員として協働センターの活動に継続的に携わるような、いつまでもつながり、関わりが持てるような取組を実施しており、今後も継続していきたい。



センターまつり中学生ボランティア

『笑顔で元気なまち福江』を実現する市民館

田原市福江市民館



公民館の沿革・年表

- 平成17年（2005）渥美町が田原市に編入合併
福江市民館設置
- 平成21年（2009）福江町中紺屋瀬古に現市民館建設
- 平成28年（2016）福江公園完成

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

「福江市民館 親子よみきかせ会」
 講師：おはなし手のひらの会・福江小学校文化委員
 対象：福江保育園園児・福江小学校児童とその保護者
 毎年、親子で過ごす時間や共通の話題を増やすことを目的に読み聞かせ会を行っている。平成25年までは地域の読み聞かせボランティア『おはなし手のひらの会』に依頼してきたが、平成26年からは小学生に関心を持ってもらうため、小学校の図書委員（現文化委員）に参加してもらっている。講師として参加する小学生が、委員会の時間に加え、放課にも自主的に練習するなど、責任感を持って取り組んでいる。
 おはなし手のひらの会は読み聞かせにとどまらず、手遊びや仕掛け遊びなどで会場が盛り上がり、笑顔で行事を終えることができる。（画像は2019年開催のもの）

親子読み聞かせ

1. 都道府県名	愛知県	3. 公民館対象人口	3819人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN（Wi-Fi等）
2. 市区町村名	田原市	4. 建物設置年月日	平成21年8月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	5台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（福江校区コミュニティ協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 303人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 24920人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 600人 <input type="checkbox"/> その他（ ）				合計 25,823人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 2人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（福江校区コミュニティ協議会総会、校区自治会定例会により評価）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他（多世代の地域住民が活動・交流できる場づくり）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（多目的ホールを有しており、毎日のように利用団体がある。）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 はつらつ隊、おはなし手のひらの会、長沢自治会、福江自治会、保美自治会、向山自治会、子ども会、福江小学校、福江中学校、田原市				

田原市福江市民館

OPEN 9:00~17:00

H P

TEL 0531-34-3881

SNS https://www.instagram.com/fukue_shiminkan/





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

子どもたちと地域住民が交流を深める方法のひとつとして、一つの行事を一緒に行う方法を考えた。小学生が講師として参加することで、来場者には子どもたちの活動を見てもらうことができ、一緒に講師を務める方にはアドバイスなどを通して、直接子どもたちと触れ合ってもらえることができた。また、子どもたちの笑顔や元気が地域の活力や明るさに繋がるため、小学生と高齢者グループ（はつらつ隊）に市民館花壇の花植えを依頼したり、保育園児と地域役員の交流イベント（わくわくパーク）なども行ったりしている。少子高齢化の地域ではあるが、幅広い世代の方が活躍できる場を作り、地域がわくわくし元気になるようにしていきたい。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

多世代が活動・交流できる公民館を目指して

～みんなが笑顔になる市民館 笑顔で元気なまち福江～

子どもたちの元気が、地域で暮らす人たちの笑顔につながると考え、子どもたちの取組を紹介したり、子どもたちが市民館を訪れる機会を設けたりしている。

【ロビー絵画展（世代間交流）】

5月～9月・11月・12月に行っているちびっこ絵画展では保育園児の作品をロビーに、10月の市民館まつりでは小学生の作品も展示している。1月には小学生の書初め作品（子ども会主催）を展示し、年間を通して子どもたちの活動を市民館で紹介している。

【親子読み聞かせ活動への小学生の参画(地域学校協働活動)(子どもの体験活動)】

読み聞かせボランティアグループ「おはなし手のひらの会」の読み手メンバーとして、小学生が参加している。

【市民館まつりへの子どもの参画（地域学校協働活動）（子どもの体験活動）】

市民館まつりでは、作品出展、器楽演奏、会場準備などで、保育園児、小学生、中学生が関わっている。準備を手伝う中学生の様子は、地域住民にも紹介している。

【小学生と高齢者との花植え会（世代間交流）】

小学生と高齢者との花植え会も行っており、世代間交流の場となっている。



ロビーちびっこ絵画展



中学生による市民館まつり準備

3. 取組による成果や効果

【特徴的な取組による成果・効果】

- ・ロビー絵画展…園児の作品がロビーを明るくし、利用者の会話のきっかけになっている。
- ・親子読み聞かせ…小学生と大人が一緒になって一つのイベントを作り上げている。
- ・市民館まつり…模擬店のほか、市民館講座や地域の方の作品展示、小学校音楽部の演奏会を行っており、多世代交流の場となっている。
- ・小学生と高齢者との花植え会…多世代交流の成果として、美しい景観が作られている。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- ・市民館を身近に感じてもらっている。講座等で新たなコミュニティが生まれている。



市民館まつり 作品展示

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

運営審議会はないが、総会を含め年に数回役員・委員と協議をする場がある。その都度行事の開催方法や効果について報告をしたり、検討をしたりしている。また、市民館事務室を開かれた空間にするよう心がけているため、役員・委員に限らず、地域の方が立ち寄り、意見交換を行うことができている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

福江校区コミュニティ協議会は、『笑顔で元気なまち福江』をキャッチフレーズにまちづくりを行っており、その中に福江市民館も存在している。市民館活動を行う場として発信する側としてだけでなく、様々な団体やグループの活動拠点として利用される施設でもあるため、人の出入りが多い。そのことを生かし、多世代の希望や意見を取り入れた活動を行い、多くの方が楽しんで活動・交流できるように心がけている。



小学生とはつらつ隊による花植

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

現在インスタグラムを活用して、市民館の活動や地域の様子を伝えている。

より手軽に市民館の情報を受け取ってもらえる方法があれば、積極的に取り入れていきたい。地域に笑顔と元気を届けられるよう、発信するだけでなく、きめ細かに情報を収集し、生かしていきたい。またインスタグラムについては、今、福江に住んでいる方に向けたものとしてだけでなく、進学等で地元を離れた子どもたちに故郷を思い出してもらえるものになればと考えている。



夏休み体験教室



南陵の森完成イメージ



日本みつばちプロジェクト

公民館の沿革・年表

- 昭和57年 4月 開館
- 平成21年 4月 指定管理者制度導入
- 平成26年度～ ロビー（ふれあいコーナー）を整備
- 平成27年度～ 元気モリモリプロジェクト
～「南陵の森」を整備～
日本みつばちプロジェクト
- 平成29年度～ Share Seeds Box（種の無料交換箱）

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

（左の図）公民館の屋外にある未使用だった空を「南陵の森」としてどのようにしたいか、「元気モリモリプロジェクト実行委員会」で考えたもの。その後、実際に整備が進み、たくさんの方の交流の場になった。

（写真）日本みつばちが環境に与える影響や役割、飼育方法などの講習会を開催し、実際に公民館で日本みつばちを飼育することで、地域の自然環境に目が行くようになった。

1. 都道府県名	愛知県	3. 公民館対象人口	10402人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	常滑市	4. 建物設置年月日	昭和57年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	10台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (TRC・アクティオ・鹿島建物グループ) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 53人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 12206人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 ()				合計 12,259人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 5人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (環境保全)				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (体育館、テニスコート等と一体の市民センターであり、公民館内に図書室もあり)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (日本福祉大学ボランティアサークル、常滑市立図書館、常滑市役所)				

常滑市南陵公民館

OPEN 9:00～21:30
TEL 0569-34-4748

HP <http://tokoname-nanryou.com>
SNS <https://www.instagram.com/nanryocommunitycenter/>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 少子高齢化及び人口減少が進んでいる地区で、公民館利用者も比例して高齢化が進み、かつ利用者数が減少傾向にあった。
- 生涯学習内容の多様化が進む中、幅広いニーズに応えられていない。
- コミュニティの弱体化
- 施設の老朽化、厳しい財政状況

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【元気モリモリプロジェクト（防災、世代間交流、子どもの体験活動の充実）】

○活動内容

・参加者と協働し、公民館の屋外にある未使用だった空地「南陵の森」の活用

・野外活動設備の制作、設置

（予算に限りがあるため、制作に必要な材料は基本的にすべて廃材を利用）

○目指すもの

・災害時にライフラインが止まっても機能する公民館、防災に関する意識・知識の向上

・自然の循環が学べる日本一楽しい公民館、自然体験を通して子ども達の豊かな心を育む

・DIY作業をコミュニケーションツールとしたコミュニティ作り

・協働活動を通して、地域住民の「コミュニティ」を創出する。

・「南陵の森」が世代間をつなぐ、地域住民の交流の拠点となる。

【日本みつばちプロジェクト（環境保全）】

・日本みつばちの講習会（環境に与える影響や役割、飼育方法など）、巣箱づくり教室

・公民館で日本みつばちの飼育

【Share Seeds Box（種の無料交換箱）（環境保全）】

地元の在来種や固定種、伝統野菜の種を住民でシェア

<種を持っている人> 交換箱に種と種の説明を書いて置いていく。

<種が欲しい人> 種をくれた人に向けてありがとうカードを記入し、種を持っていく。

翌年種取りができれば、今度は種を置きに来る。

<種の交換ルール> 固定種・在来種に限る、F1種子の譲渡禁止、栽培を禁止されている種は置かない。



南陵の森完成！



種の無料交換箱

3. 取組による成果や効果

【元気モリモリプロジェクト】

○近隣大学のボランティアサークルが途中から積極的に参画

○「南陵の森」を整備するにつれ、保育園やデイサービス等、たくさんの方が遊びに来るようになった。

○「南陵の森」を利用した自主事業も展開した。（防災キャンプ、野外料理教室、ヨガ教室）

【日本みつばちプロジェクト】【種の無料交換箱】

○地域の自然環境に目が行くようになり、自然を次世代に残したいと考えるようになった。

○新たな世代間交流が生まれた。



防災キャンプ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

○学校・社会教育・家庭教育の関係者及び学識経験者等11名で構成する公民館運営審議会を年間2回開催。その他、教育委員会定例会（随時）、社会教育委員会（年間2～3回）、学識経験者による教育行政執行状況の点検及び評価においても、公民館の現状や課題を報告するとともに、取組についての改善点等の意見を踏まえながら改善を行っており、PDCAを意識した公民館運営を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

地域資源をフル活用して「楽しい」をキーワードに地域住民をつなぎたい。公民館が生涯学習及びコミュニティ形成の核であるという強い信念が大切である。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

令和3年度に、併設図書室の拡充、倉庫となっている部屋を学習室（オンライン対応）として整備することとしており、本やオンラインを活用した事業を展開し、新たな利用者層を増やしたい。

マイ防災マップ作りとコミュニティ強化の村づくり

宮津市上宮津地区公民館



H23. 7月24日防災の集い

公民館の沿革・年表

- H25 文科省「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム事業」採択
- H26.8.29 京都府公民館大会 発表
【会場：京都府野田川わくばる】
- H26.9.12 近畿社会教育研究大会（第5分科会）発表
【会場：大阪府吹田メシアター】
- H26.10.9 ESD推進のための公民館-CLC国際会議参加
【会場：岡山県岡山コンベンションセンター】
- H26.10.20 宮津市防災のつどい発表【会場：宮津会館】

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

【写真上段】 大手川親水と防災の集い

平成16年の台風23号被害から改修された大手川改修工事の竣工式前に大手川上流の上宮津地区にてイベントを開催。上宮津地区の地区民とワークショップで検討し完成した親水広場をメイン会場に鮎つかみや流しそめんなどが行われた。

【写真下段】 プロジェクト会議

文部科学省「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム事業」を受け、上宮津地区公民館を核としたプロジェクトチームを結成し、第1回のプロジェクト会議を開催した。



H26. 6月プロジェクト会議

1. 都道府県名	京都府	3. 公民館対象人口	982人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	宮津市	4. 建物設置年月日	昭和30年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	18台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 284人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1479人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 1,763人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 2人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (昭和33年頃に加悦町から解体移築された木造2階建。大黒柱はケヤキ尺角。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ()				

宮津市上宮津地区公民館

OPEN 9:00~14:00 H P <https://www.city.miyazu.kyoto.jp/soshiki/17/4844.html>
 TEL 0772-22-2415 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

宮津市は、平成16年10月に発生した台風23号により、宮津市街地及び上宮津地区を中心に甚大な被害が発生し、災害復旧が進む平成18年度以降、各地域において、地域独自の課題を地域自らが考える地域会議が組織化されるようになり、上宮津地区においても同様に上宮津地域会議が組織化され、上宮津地区公民館と上宮津自治連合会が互いに連携を深め、とりわけ地域防災等の地域課題を検討し、課題解決に向けた事業を実施してきたところである。近年は、E S Dの視点を取り入れ、地域課題となる重点分野に関する主催講座を毎年テーマを変えて開催している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

上宮津地区公民館では、地域住民の生涯学習の拠点として、地域の誰もが健康で楽しく豊かに生活できるように地域課題を見極め、毎年教養テーマを変え積極的に学習機会、学習の場を提供している。

近年では、平成25年・26年に文部科学省の委託事業を受け、上宮津地区公民館を核としたプロジェクトチームを結成し、地域課題の一つである安全安心な地域づくりを目標に「マイ防災マップ作りとコミュニティー強化の村づくり」事業に取り組んだ。

平成30年には、超高齢社会に起因する集落機能の低下に対し、誰もが生涯を通じて安全安心に暮らせる地域づくりを目指すことを目的に「終活」をテーマに高齢者を対象とした教養講座を開催した。

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた事業は概ね中止となったが、8月には上宮津地区青少年健全育成懇談会主催による夜間パトロール、10月には旧上宮津小学校グラウンド清掃を行った。

令和3年度においても、例年実施の事業が思うように開催できず、コロナ禍において改めて「新たな学び」のニーズと重要性を再認識。地域の公民館として、ウィズ／アフターコロナの時代を見据えた新しい形での公民館事業の計画や、ICT等を活用した「新たな学び」の実践に向け、日々奮闘している。



H26. 8月ワークショップ



H26. 9月津波避難訓練

3. 取組による成果や効果

平成25年・26年の2ヶ年による文部科学省の委託事業では、上宮津地域会議及び上宮津自治連合会のリーダーからなるプロジェクトチームを立ち上げ、京都府立大学及び京都大学との連携により、大学教員の指導のもと学生協力隊を受け入れ、各自治会単位でワークショップ開催によるマイ防災マップの作成に取り組み、自主避難に活用できる実効性のあるマップが完成した。

近年の取り組みとしては、平成30年に「終活」をテーマに高齢者を対象に開催した教養講座では、テーマに沿った各種関係団体と連携することで多くの参加者を集め、将来を見据えた視点での学習に取り組めた。



完成したマイ防災マップ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

上宮津地区公民館では、上宮津自治会、上宮津地域会議で策定した「上宮津2022ビジョン」をもとに公民館職員が中心となり、上宮津地区公民館運営審議会で事業を計画・運営・評価するとともに、宮津市社会教育委員会及び宮津市公民館運営審議会委員の指導助言を受け運営している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

平成26年に文部科学省の委託事業において参加した「E S D推進のための公民館－CLC国際会議」を契機に、上宮津地区公民館ではE S Dの視点を取り入れ、地域課題となる重点分野（地域づくり・防災・安心安全・環境・健康など）に関する主催講座を毎年テーマを変えて開催している。



CLC国際会議分科会での発表

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

重点方針：①コミュニティーが深まる地域づくり、②子供と若者が増える地域づくり、③集落機能が維持していける地域づくり、④農林業や観光を中心に自然の恵みが経済の発展につながっていく地域づくり、⑤生涯を通じて誰もが安全安心に暮らせる地域づくり



文化祭



写真展

公民館の沿革・年表

取組

- 昭和25年 吉美公民館開設
- 昭和48年 高齢者学級の開設
- 昭和54年 広報紙発刊
- 昭和63年 吉美公民館新築移設
- 平成13年 しめ縄作り教室を開始
- 平成18年 吉美公民館が指定管理になる
- 令和元年 吉美地区に縁のある人の作品展を開始

左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

- 文化祭「地域住民がつながり合う文化祭」
例年は地域団体による模擬店等、にぎわいのある交流の場。昨年はコロナ禍のため、作品の出展・鑑賞をとおして、地域住民の存在とつながりを感じ合う場となった。
- 写真展「地域の良さを再確認した写真展」
鑑賞に訪れた住人が、写真をとおして地域の良さを語り合う場。「柘井節夫写真展」の鑑賞者からは、「心が洗われた思いで帰宅することができます」との感想が寄せられた。

1. 都道府県名	京都府	3. 公民館対象人口	2405人	5. 来館者のインターネット接続環境	有線・無線の両方
2. 市区町村名	綾部市	4. 建物設置年月日	昭和63年3月30日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (吉美地区自治会連合会)	<input type="checkbox"/> その他 ()		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 0人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	3,656人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 3人	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 3人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算	<input checked="" type="checkbox"/> 委託金	<input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算	<input type="checkbox"/> 寄附等	<input type="checkbox"/> その他 ()
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> その他 ()		
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (地域の拠点施設として、地域住民が行きやすい雰囲気施設の)	<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 吉美地区自治会連合会、吉美小学校、吉美こども園、吉美地区まちづくり協議会、綾部市教育委員会

綾部市吉美公民館

OPEN 8:30~22:00 H P
TEL 0773 (42) 6772 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

少子高齢化による次世代の担い手が不足しているが、それを嘆くだけでなく、そこに住む人たちが元気に生活し、学び、活動ができるよう、地域の拠点施設として、年間を通して様々な活動を計画している。

全国的に田園回帰が強まる中、移住者を増やすには、まずは住んでいる住民にとって住みよい魅力あるまちであるべきで、人間関係が希薄になっている時代に、地域の一人ひとりの顔が見える、顔が分かる公民館活動を行い、地域全体を盛り上げる役割を担っている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【作品展（文化事業）】

吉美地区に縁のある人の絵画や写真、菊花等の作品を、令和元年度から春夏秋の年3回展示。「吉美在住の方の作品を、ゆっくり鑑賞してもらおう機会を作る」、「吉美の人がたくさん集える公民館にする」ことを目的に実施している。

【高齢者学級（高齢者の学び支援）】

高齢者の方々に学習の機会を提供し、学習の意欲をもってもらうとともに、参加者同士の交流を図り、高齢者の生きがいと地域社会への参加を促進することを目的としている。活動を楽しみながら、様々な分野の知識を学ばれている。

【吉美地区文化祭（文化事業）】

地域住民の生涯学習の発表の場として開催。書・絵画・洋裁・盆栽等、地域住民の老若男女から幅広い作品を募集し、展示してきた。作品展示を前に、人々が交流・親睦をすめる機会となっている。

【一斉声かけ（地域学校協働活動）】

綾部市青少年育成連絡協議会が開催している「全市一斉声かけの日」に合わせて登校時の声かけを実施。また、小学校と連携し、子どもたちに地域行事に参加してもらうため「スタンプラリー」を企画し、ふるさを知る教育の一環として取り入れてもらい、小学生の行事参加が増えた。

【しめ縄作り教室（子どもの体験活動）】

親子で参加して触れ合い、また日本古来の伝承文化を体験できる場となっている。



吉美地区文化祭



しめ縄作り教室

3. 取組による成果や効果

「特に力を入れていること、特徴的な取組・活動」による成果・効果

- 公民館報を年2回発行し、地区全戸に配付している。公民館行事の紹介だけでなく、小学校や子ども園の活動、諸団体の活動など、地域の多くの人々が載るように心がけ、オールカラーで写真を多用して紹介し、情報の提供および共有を図っている。
- コロナウイルス感染症が蔓延し、活動自粛が余儀なくされる中で、できることから始めようと取り組んだイベント「手作りマスクコンテスト」と「時事「川柳」」は、自粛によるおうち時間を有効活用し、明るい話題を提供するため実施した。

公民館の取組全体による成果・効果

- 公民館活動を通じてできた住民同士のつながりが、吉美地区の活性化に繋がっている。

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 各部会ごとに、会議を行う場を設けている他、合同部会を年1回設けて、それぞれの事業計画や事業後の反省をまとめている。
- 公民館運営審議会を年に2回開催し、行事の計画や事業まとめ等を話し合い、今後の公民館活動に反映させている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 自治会単位を分館と位置付け、各自治会長も公民館活動に積極的に関わっていただいている。公民館と自治会連合会が連携し、地域全体を盛り上げることを大切にしている。
- 「地域の人と人とのつながりを大切に」をモットーに、地域住民の「楽しく顔が見える活動」を心がけている。



菊花・山野草展

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 公民館を身近な機関、地域の拠点施設として、気軽に足を運んでもらえるよう、さらなる吉美地区の地域力の向上を目指した活動に取り組んでいきたい。



60以上の団体が参加する自由が丘公民館文化祭



地域に住む外国人も参加する自主防災訓練（簡易担架搬送訓練）

公民館の沿革・年表

- ・昭和54年 自由が丘コミュニティセンター創設
- ・昭和56年 自由が丘コミュニティセンター体育館完成
- ・平成元年 自由が丘コミュニティセンターから自由が丘公民館へ
- ・平成8年 スポーツクラブ21自由が丘西・東の設立
- ・平成9年 自由が丘連合行事推進協議会設置
- ・平成16年 第1回ウォーキングフェスティバル開催
- ・平成23年 県民交流広場事業で公民館を拠点施設として改修
- ・平成28年 ウォーキングフェスティバル過去最高の733名参加
- ・平成29年 自由が丘自主防災訓練、災害食調理訓練実施。881名参加

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- ①自由が丘公民館文化祭（人材発掘に繋げるための事業）
 昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施できませんでしたが、毎年2月の第1土・日曜日の2日間で延べ5,000名の来館者を迎え、60余の文化・体育の登録団体、小中学校、幼稚園、自由が丘の街づくりのために日々活動している地域の各種団体が、一堂に会し日頃の活動の成果を発表し、より一層の文化の向上と心ふれあう地域づくりの推進を図っている。
- ②自由が丘自主防災訓練（地域にすむ外国人も参加している事業）
 阪神淡路大震災の次の年から、地域住民の安全と安心のまちづくりのため、防災訓練を実施している。約800人規模で実施する地区主催の訓練では、近隣では一番大きな訓練である。地域内に居住する外国人が増えており、数カ国語でのマニュアルを用意し参加を呼びかけ、住民一体となり安全安心のまちづくりを進めている。

1. 都道府県名	兵庫県	3. 公民館対象人口	16,000	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	三木市	4. 建物設置年月日	昭和54年6月11日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	-
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ）				合計 13,901人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 5人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （ 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人 ） 合計 7人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> 自由記述（ ） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 （ 自由が丘市民協議会（自由が丘小学校、自由が丘東小学校、自由が丘中学校、自由が丘小学校PTA、自由が丘東小学校PTA、自由が丘中学校PTA、区長協議会、自由が丘地区老人会連合会、青少年補導委員会、民生委員・児童委員協議会、区長OB会、スポーツクラブ、自由が丘消防隊） ）				

三木市自由が丘公民館

OPEN 8:30~22:00

H P <https://www.city.miki.lg.jp/site/jiyugaokakominkan/>

TEL 0794-85-4700





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

自由が丘公民館は、自治会とも連携し一体となり地域コミュニティ活動、生涯学習事業、人権教育事業などまちづくり全般を共に推進してきた。神戸市のベッドタウンとして人口が急増していたときは、新しいふるさとづくりとして活気にあふれていた頃もあったが、人口も平成10年をピークに少子高齢化の波が押し寄せ、次の時代を背負う役員の担い手不足が生じてきた。また外国人の転入も増加し、以前からの住民との間に課題ができていった。そのような状況を地域住民に周知し、これからの公民館を中心とした自治のあり方をともに考え、あらゆる機会を通じ、地域に眠る人材を発掘、育成を進める傍ら、市民協議会において、地域のことは地域で解決できる仕組みを作るため、地域住民とともに汗をかき、知恵を出すことで事業を推進してきた。また、広報を通じて取組について周知したり、事業改善のための各種アンケートを実施することで、地域住民からも信頼される公民館を目指したりしているところである。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

1 市民協議会による人材発掘に繋げるための事業の実施

・日曜大工塾の実施

当初は、公民館で使用する建具や棚など、各家庭でのDIYの技を習得していただくため、リタイア世代をターゲットに、新たな人材を発掘し、公民館への愛着を持っていただくための講座を実施した。現在は、会場を各地区の集会所とし、教材を集会所の下駄箱や棚を作成することとし、もっと身近な地区から人材を発掘し、持続可能なまちづくりを目指している。

・自由が丘公民館文化祭

毎年2月の第1土日に開催している。参加する60以上の団体には、外国人が所属する団体もあり、ダンスやコーラスなどの披露や作品の展示などを行っている。

・生涯学習講座の実施

乳幼児教室、女性セミナー、高齢者教室を実施し生涯学習の推進や地域人材の育成、発掘に努めている。

2 地区行事の実施方法の見直し

町あげての大きな行事（納涼盆踊りなど）の実施方法を見直し、すべて役員による手作りで行っていた会場設営を業者に委託し、役員の負担を軽減した。

現在でも盆踊りを8月第1土日の2日間実施できている。市内で2日間盆踊りを実施しているのは自由が丘地区だけになっており、自由が丘を離れた若い世代の方々も楽しみに帰郷され、多くの方が参加するイベントとして定着している。

3 地域住民の安全安心を守るための事業

・阪神淡路大震災の次の年から、地域住民の安全と安心のまちづくりのため、防災訓練を実施している。新型コロナウイルスの感染拡大のため、令和2年度は中止としたが、約800人規模で実施する地区主催の訓練では、近隣では一番大きな訓練である。数カ国語で書かれた防災マニュアルを用意し、地域に住む外国人にも呼びかけ、参加に繋げた。

4 住民主体のまちづくりの推進

・公民館と市民協議会が連携し「地域の課題は地域で解決する」という機運を醸成し、住民主体のまちづくりを推進している。

5 「自由っ子未来塾」の推進

・自由が丘地区では外国人の転入が年々増加している。次代を担う子どもたちの育成と多文化共生の推進を図るため、夏休み期間を活用し、地域内の教員を目指す大学生や、教員のOB、OGを指導者として依頼し、世代間交流・多文化交流をしながら、学習支援活動「自由っ子未来塾」を進め地域人材を育成したり、外国人の参加に繋げたりした。



日曜大工塾



外国人向けの防災マニュアル

3. 取組による成果や効果

- ・人材発掘に地道に取り組んだ結果、地域住民で行う広域防災訓練を実施するまでに至った。
- ・防災訓練において、新たな課題も見つけ、新興住宅地では珍しく「自由が丘消防隊」が平成23年1月に発足した。家屋倒壊で消防車などが駆け付けられない場所には、消火栓による自主的な消火活動ができるよう訓練、研修を実施した。
- ・防災訓練には中学生にも参加してもらい、防災意識の向上、また日中に災害が起きたときには地域の救助活動にも活躍してもらえるよう、積極的な研修の機会として捉えてもらえるようになった。
- ・多文化共生の観点から、数カ国語で書かれた防災マニュアルを用意し、地域に住んでいる外国人にも参加を呼びかけた結果、地域外国人の参加もあり、災害時等におけるスムーズな避難が期待される。
- ・全国で起こる自然災害においては、阪神淡路大震災では三木市も被災地となり多くの援助をいただいた感謝の気持ちとしてお返しするため、東日本大震災の時では、その支援のためのリサイクルバザーを実施し、その収益を東北復興のための義援金として贈ることができた。自然とそういう声は地区内から起こってくることは、普段からの地区の方々への地道な地域活動の賜物である。



中学生の参加した自主防災訓練

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・各種地域行事においては、区長会等で反省会や改善点などの意見集約を行っている。
- ・生涯学習講座においては、参加者アンケートで意見集約を行っている。
- ・公民館利用者にも年度末にアンケートを実施し、次年度に向けての改善点を見出し、新たな取組を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

来館される皆様に気持ちよくご利用いただくため、丁寧な対応と安全安心、花壇整備による花いっぱい公民館、そして何より地域コミュニティの核と地域住民の交流の場づくりを大切にしている。そのため、年度末に公民館運営アンケートを実施し、住民のニーズ等を把握し、改善に生かしている。



公民館運営アンケート結果

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

人生100年時代を迎え、公民館での生涯講座で様々な学びを提供し、さらに高齢者大学へと学びを繋いでいく。そこから地域に戻り「学ぶ側」から「教える側」に、学びを還元する仕組みを作りたい。

「まちづくりは人づくり」の原点に立ち、人づくりを通じて持続可能なまちづくりを推進していきたいと考えている。





(若者の高齢者支援) 高齢者と高校生とのふれあいコンサート



(家庭教育支援) 家族で集う餅つき大会

公民館の沿革・年表

- 昭和34年4月 姫路市立勝原公民館創立
- 昭和36年 旧勝原村役場を公民館として内部改装
茶道・生花・習字・手芸・料理などの7講座を開設
- 平成17年4月 現在の勝原公民館竣工
- 平成21年 朝日ボランティア「公民館グループ」立ちあげ
- 平成26年 障害者作業所「朝日ノ里」協働事業開始
- 平成26年 姫路南高校協働事業開始
- 平成29年 こども発表会&親子もちつき開催
- 平成30年 勝原幼稚園 親子苗植え・親子芋ほり実施
- 令和1年 文化祭に、太子高校コーラス部出演

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

「みんながつくる公民館」の「みんな」は、地域を中心とした多世代の人、男性女性、健常者・障がい者といった様々な立場の人のことである。特に、中高生や壮年の男性は、姿を見ることがないため、本論の一つの柱とした。

「つくる」というのは、自分が学ぶだけではなく、できる範囲で能動的に講師やサポーターとなってよりよい講座や施設をつくっていく、ということである。そうすることで、自分の有用感や連帯感などを強くしていくことで、本論の二つ目の柱とした。

1. 都道府県名	兵庫県	3. 公民館対象人口	12426人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	姫路市	4. 建物設置年月日	平成17年4月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2961人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 13894人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 2,361人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1509人 ()				合計 20,725人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 2人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (公民館活動推進委員会(有識者12名)年3回開催)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (公民館の近隣に、館独自で畑を提供してもらい確保している。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 障害者作業所 JA兵庫西勝原支店 社会医療法人三栄会ツカガキ病院				

姫路市立勝原公民館

OPEN 09:00~17:00 H P <https://www.city.himeji.lg.jp/bousai/0000004447.html>
 TEL 079-274-3701 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

課題1 公民館利用者のほとんどが高齢者で、なかでも女性の割合が多かった。利用者同士の交流も一部の人のみに限られていて世代の偏りがみられた。地域での公民館の認知度は低く、中高生や現役世代の男性の参加はほとんどなかった。

課題2 既に自治会が立ち上げたボランティア組織があったが、自主性に乏しく、よくわからないままなんとなく手伝っているという受け身の様子が見受けられた。また、参加者や関係者も開催する講座に出席するだけで、自分たちで何かを考えていくという雰囲気は少なかった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

課題1 多世代(中高生や男性)や様々な立場の人を巻き込んで取り組んだ。

■ 中高生を教養講座や小学生対象の講座の講師として招き、高齢者と高校生など違う世代、違う立場での交流を行い、**中高生が意欲的に参加**できるように取り組んだ。

■ 現役世代の男性の来館を促すため、子育て世代をターゲットにした**家族参加型の企画**を立ち上げた。以前からあった行事（餅つきなど）も家族で楽しめるものに変えた。

■ 新しい参加者を呼び込むために、異世代交流など**毎年必ず新しい講座**を作っている。

■ 多世代の参加だけでなく、様々な立場の人が参加できるよう、校区内にある障がい者施設と連携し、お客さんとしてだけでなく、**企画・運営にも携わ**ってもらっている。

課題2 ボランティアの人たちに**聞き取り**を行い、提案してもらったことを色々な場面で取り入れていくことで「**みんながつくる**」意識を持ってもらえるようにした。また、行事の時などにも気付いたことは、**その場で提案してもらい一緒に行事を作り上げている実感**をもてるようにした。

ボランティア経験のない人にも広く声掛けをし、**誰でも・いつでも・気軽に運営の立場**で参加できるようにして運営に対する関心を持ってもらえるようにした。参加者とスタッフの垣根を低くして、参加者の誰もがスタッフでもあるという和気あいあいとした雰囲気づくりに努めた。

初めて参加した人にも声をかけ気づいたことを教えてもらうことで、**より参加しやすい環境づくり**を進めている。



(子どもの体験活動) 高校生と小学生の交流「音楽で遊ぼう」



(障がい者の学び支援) 公民館カフェで障がい者施設からの参加者が、さそり織や野菜等の販売スタッフとして参

3. 取組による成果や効果

課題1 様々な世代が参加し、**中高生や男性、障がい者の参加が定着**してきた。高校生が教える各種教室では、小学生だけでなく、高校生の成長も大きい。普段交流のない世代との交流がお互いにもたらす効果の素晴らしさを感じる。中高生はただ参加するだけでなく、講師やボランティアとしても公民館で協働している。

課題2 館長の**予想を超える提案**があり、次々と行事が広がり嬉しい悲鳴をあげている。行事の参加者が、お客様としてではなく共に運営する意識をもって参加する人が増えた。よく「何か手伝いましょうか？」と声をかけてくれ、わが子だけでなく、他の子どものお世話なども気にかけてくれる人が増えた。「**みんながつくる**」意識を強く実感している。



(子育て支援) ちびっこ広場・保護者

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

公民館活動推進委員会（有識者12名）年3回。公民館活動リーダー研修会議（文化講座講師・リーダー計70名）年3回。公民館活動の見直しや改善点について話し合う。会議で意見を聞く以外に重視しているのは、来館する人から直接生の声を聞き取るようにしている。改善案や新しいアイデアなどが提示された場合は、必ず何らかの形で反映させることで、積極的な関わりや公民館活動への参加に繋がっている。館長自身も学校園等の評議員として、双方向のコミュニケーションをとっている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「みんながつくる」公民館であるために、日頃から、声をかけ話を聞くこと、気軽に提案ができる雰囲気づくりを大切にしている。「敷居の低い公民館」と言ってもよいかもしれない。みんなの声をもとに、「次は、何をしようか?!」「こんなこともできそうだ。」「やってみる?」とさらに魅力ある公民館づくりをしていく。



(高齢者の学び支援 沖縄民謡)

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

自分の学びも大切にし、さらに勝原の街づくりの担い手の育成や文化の発信ができるような公民館をみんなで作っていききたい。ここで育った小学生が中学生や高校生になってお世話する立場でも活動に参加し、その中学生や高校生たちが大人になって自分たちのこととして校区や地域、その文化をつくっていく原動力となってほしいと考えている。



(子どもの学び支援) ストーリーテリング

「公民館回想法」でつながる笑顔！生きる喜び！

奈良市都跡公民館



イメージ図



グループ回想法「想い出語りサロン」の様子

公民館の沿革・年表

- ・昭和24年 都跡公民館開設 ※旧都跡村役場跡に併設（委託地区公民館として運営）
- ・昭和63年 都跡公民館新設（市直営公民館として運営）
- ・平成10年 都跡公民館開館10周年記念行事を行う
- ・平成13年 指定管理者による運営が始まる
※指定管理者は、奈良市生涯学習財団
- ・平成20年 都跡公民館20周年記念まつりを開催
都跡公民館自主グループ連絡協議会発足
- ・平成30年 都跡公民館開館30周年記念行事を行う

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

（左図上）「公民館回想法」事業のイメージ図

（左図下）古民家でのグループ回想法の様子。かまどを囲んで戦後の風景写真を見ながら、思い出を語り合っています。

【回想法について】回想法とは、人生を振り返り過去を回想することによって自己肯定（人生の肯定・受容）を行い、未来に向かって前向きな態度を生み出す援助方法のことである。高齢者施設等で行われることが多い回想法を、公民館において一般市民が学び、地域の高齢者ケアに携わり、公民館全体に彩りを添えていることがこの取り組みの最大のポイントです。

1. 都道府県名	奈良県	3. 公民館対象人口	30407人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	奈良市	4. 建物設置年月日	昭和63年3月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（（公財）奈良市生涯学習財団） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1628人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 180人（「公民館自主グループ連絡協議会」8回×15人、図書の間覧貸出60人）	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8298人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 61人	合計 10,167人		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人）	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 （職員のうち社会教育士の数 0人）	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 合計 3人	
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（同一敷地内に「昔のくらし館」「市指定文化財旧田中家住宅」がある※市文化財課所管）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 （都跡地区自治連合会、都跡地区社会福祉協議会、都跡中学校区地域教育協議会、都跡地区子ども会、奈良市文化財課、都跡公民館自主グループ連絡協議会）				

奈良市都跡公民館

OPEN 9:00~21:00

H P

<http://manabunara.jp>

TEL 0742-34-5954

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 都跡公民館の対象地域には世界遺産3つがあり、公民館の同一敷地内には「昔のくらし館」と市指定文化財の古民家があるなど、豊かな歴史・文化があり、それらの教育資源の様々な活用が公民館の大きな柱となっている。
- 高齢者のみの世帯が増加し、世代を超えたつながりの希薄化など、地域における高齢者支援が課題になってきている。
- 生き生きと健康でありたいと願う高齢者が、公民館に学習機会や居場所を求めている。
- 地域における各種団体のネットワーク化が必要である。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【「公民館回想法」事業（高齢者の学び支援）（世代間交流）】

上記の課題から、認知症予防・介護予防等に効果があると注目されている、心理療法のひとつである回想法に着目し、都跡公民館**自主グループ連絡協議会と協議をして取り組みを進める**ことにした。平成30年度に、回想法を行う機会をつつていくための回想法ボランティア養成講座を開催し、**人材の養成**を行った。そのボランティアと共に、高齢者を対象に公民館に隣接する古民家や「昔のくらし館」にある道具を活用した事業「回想法～思い出語りサロン～」を毎年実施している。そこでは、参加者と進行役のボランティアとが10人位のグループになり、「子どもの頃の遊び」等のテーマを設けて、思い出を語り合うグループ回想法を実施している。高齢者施設や保健医療機関、博物館などの専門家による回想法ではなく、**市民が自ら学習したことを、仲間と共に地域の中で実践している点**がこの事業の大きな特徴である。約20人いるボランティアの大半が**65歳以上で、高齢者を支援する側として生き生きと活躍している点**も特徴である。「高齢者学級」をはじめ公民館のイベントなど色々な場面でも回想法の手法を取り入れ、参加者が語りを通して、仲間づくりや生きることの喜びを育んでいくことに力を入れている。また、高齢者支援を地域ぐるみで考えていくために、回想法の体験・学習会を行っている。さらに、公民館の子どもの体験学習において、昔の遊びやかまどでご飯を炊く指導を回想法ボランティアが担い、**世代間交流につながる工夫**を行っている。



【思い出語りサロンの様子】



【紙トンボ工作】歳の差75の友情

3. 取組による成果や効果

● 回想法**ボランティアが自主グループを結成**し自立。地区社協や地域包括支援センターと連携し、高齢者施設や認知症カフェでの回想法や、地域の気になる家庭への訪問による回想法など、**公民館では補いきれない福祉の部分での回想法による高齢者の学び支援の道筋ができてきた**。●「思い出語りサロン」の参加者が、安心して話を聞いてもらえることで、表情が豊かになり気持ちが前向きに変化していく様子が多く見受けられる。（自己肯定感の向上）● 公民館の共有スペースで楽しそうに**語らう姿が多く見受けられる**ようになった。その語らいが仲間意識や生きがいを生み、時にはカウンセリングの役目を果たすようになる等、**公民館全体の雰囲気明るく前向きに変化し、各々の人生に彩りと幸せをもたらしている**。



【古民家での回想法】

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

● 講座の参加者にアンケートを実施し、その結果を職員と回想法ボランティアとが共に振り返り、改善点を探り、今後に生かす話し合いを実施するなど、PDCAサイクルを意識して取り組んでいる。さらに、**職員と回想法ボランティアとが、様々な回想法の取り組み方について情報を共有し、学習を継続**していることが、新たな取り組みの展開につながっている。● 公民館自主グループ連絡協議会を定期的に実施し、本取組やその他の講座に市民の声を迅速に取り入れるようにしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館での学びを通して、幸せな未来と地域を、たくさんの人と共に創っていくことをモットーに、**人と人、人と学びなどの様々な出会いを演出し、幸せを紡いでいくことを大切にしている**。また、**公民館が働きかけ、自治会・地区社協・地域教育協議会などの各種団体や学校とのネットワークを作り、多様な場面で連携・協働していくことも大切**と考えている。



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

引き続き、世代を超えて、互いが認め合い尊重し合える**地域づくりを市民と共にめざしていく**と共に、学びを通しておとなも子どもも都跡地域に愛着を感じ「ふるさと」と思う心を育て、**地域を大切に思う人を増やしていく**。公民館と接点の少ない**若い世代に焦点をあて**、若者対象の講座や若者を交えた回想法の展開、新たな回想法ボランティアの養成などの取り組みにも着手していく。



笑顔あふれる幸せいっぱい公民館

公民館の沿革・年表

- 昭和47年 中津村中央公民館開設
- 昭和61年 あやめ学園開園（高齢者の学び支援）
- 平成17年 川辺町・中津村・美山村が合併し日高川町となる
中津公民館開設
- 平成20年 日高川交流センター新設
- 平成30年 日高川町中央公民館開設
- 令和 3年 県立日高高校中津分校学校運営協議会に参画

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

【上段写真：日高川交流センター】

日高川の中流域に位置し、紀伊山地の山々に囲まれた自然豊かな環境にある。最大504名を収容できるホールを備え、地域住民の交流センターとして親しまれている。また、中央公民館も併設しており、**まちづくりや生涯学習の活動拠点**となっている。

【下段写真：鷲の川の大滝】

日高川町観光協会との連携で実施されている、「鷲の川 渓流アマゴ釣り」体験は、親子で大自然を満喫できると近年人気が高まっている。また、紅葉シーズンにハイキングに訪れる方も増えている。



日高川交流センター



鷲の川の大滝

1. 都道府県名	和歌山県	3. 公民館対象人口	9,590人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	日高川町	4. 建物設置年月日	平成20年5月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数		
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 (〇〇地区まちづくり協議会)	<input type="checkbox"/> その他 ()			
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 130人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 4,682人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,100人	合計	5,912人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 3人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (社会教育委員会議)					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (多世代交流)	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (最大504名収容できるホールを備えている)					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (なかつ保育所、中津小学校、中津中学校、日高高校中津分校、和歌山大学、紀州体験交流ゆめ倶楽部、大阪狭山市、泉大津市)					

日高川町日高川交流センター

OPEN 8:30~22:00

TEL 0738-24-9333

HP http://www.hidakagawa-ed.jp/exchange/index_exchange.html

SNS <https://ja-jp.facebook.com/hidakagawakouryuu/>



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

日高川町は、古くから農林業を基幹産業として発展してきた。現在は、安定した品質で全国でも人気の高い柑橘類、野菜類、また、山間部では、梅や椎茸、干両の栽培が盛んである。また林業では、スギやヒノキ材のブランド化も促進して地産地消拡大を推奨しており、紀州備長炭の生産量は日本一である。まち・ひと・しごと創生総合戦略では5つの基本目標（①安定した雇用を創出する ②**地域への人の流れをつくる** ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる ④安心安全な暮らしを実現する ⑤**時代に合った地域をつくる**）を掲げて、まちづくりに取り組んでいるところである。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【ひだかがわ体験（地域資源を活用したまちづくり）】

平成14年に設立した「ゆめ倶楽部21」は「**体験から交流、交流から定住へ**」をテーマに体験型観光、農家民泊、移住者の受入を行っており、日高川交流センターはその活動拠点となっている。

【あやめ学園（健康づくり、高齢者の学び支援）】

昭和61年に開園した「あやめ学園」は、高齢者の生涯学習、生活・文化の向上発展に努めている。毎年行っているあやめ学園と子ども会との世代間交流事業では、陶芸・手芸・盆栽・カラオケの講座を通して多世代交流が図られている。

【あやめ踊り（地域振興や伝統文化継承活動）】

元禄時代の歌舞伎女形で旧中津村地域出身の芳澤あやめを顕彰するために生まれた「あやめ踊り」を小学生、中学生に継承する活動に取り組んでいる。

【ジュニア文化フェスティバル（子どもの体験活動の充実、若者のまちづくり参画）】

子どもたちの文化発表「ジュニア文化フェスティバル」を開催し、若者世代の公民館利用促進につながっている。町内だけにとどまらず、周辺市町からの参加者も増加傾向にあり、従来の文化発表に加えてヒップホップダンスやクラシックバレエ等に広がりを見せている。また、運営スタッフとして参加しているボランティアとの世代間交流につながっている。



民泊で田舎の生活を体験



あやめ踊り

3. 取組による成果や効果

- 平成20年に日高川交流センターが開設されると同時に自主事業実行委員会及びボランティアスタッフが組織され、自主的なイベントの企画、運営に携わっている。
- 現在、委員及びボランティアスタッフ総勢34名のうちIターン者が13名おり、**地域コミュニティの活性化**につながっている。
- 地域おこし協力隊で活動し、その後定住された方を講師に招き、公民館講座（スマホ・タブレット教室）を開催している。また、IT企業での職歴を活かし、県立日高高校中津分校でeコマースの出張授業を開催している。
- 平成14年に設立したゆめ倶楽部21は、令和3年4月に日高地域で組織された紀州体験交流ゆめ倶楽部に形を変え、**広域的な活動を行う**団体となった。



地域の高校での出張授業

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 社会教育委員会を年4回開催し、実績報告や次年度計画を諮っている。また、**委員の循環**を図るため、多世代に委員を委嘱している。
- 県立日高高校中津分校**学校運営協議会（館長が委員として参画している。）**で、課題やビジョンを共有し、地域・学校・行政の連携・協働を図っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

子どもたちが地域の文化を学び、地域を知ることにより日高川町に住み続けたい、将来日高川町に戻ってきたいまちをめざす。そのために日高川交流センターが地域住民の交流の拠点、文化の拠点となるように力をいれていきたい。また、町外から**地域への人の流れをつくる**拠点として、**未来に向かう交流のハブ**にしていきたい。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

少子高齢化が進み、小中学校の統廃合が検討される中、地域住民の交流の拠点としての日高川交流センターの役割は大きくなっていく。外部からの“新しい風”を意図的に吹かせ、**時代に合った地域をつくる**ことを地域住民と共有していきたい。



日高川交流センターまつり

菜の花がつなく まちおこし交流



地域づくり講座「Yellow7プロジェクト『いろどり高城』



高城大地に広がった菜の花畑

倉吉市高城コミュニティセンター

公民館の沿革・年表

- ・昭和23年：高城小学校に開設
- ・昭和28年：倉吉市高城公民館となる
- ・昭和41年：倉吉公民館高城分館と改称
- ・昭和43年：現在地に高城会館を竣工、移転
- ・昭和44年：公民館委託制度施行、高城地区公民館管理委員会が受託、高城公民館と改称
- ・昭和56年：公民館研究指定事業開始
- ・平成18年：指定管理者制度導入
- ・令和3年：高城コミュニティセンターへ移行

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

【地域づくり講座「Yellow7プロジェクト『いろどり高城』～菜の花がつなく まちおこし交流～】

地区内にある広大な土地は地域資源ではあるが、活用されず人の出入りもほとんどなかったが、地域づくり講座「Yellow7プロジェクト『いろどり高城』」において、学級生が土地の耕し方や手入れの仕方を学びながら菜の花を育て、見事に一面菜の花畑が広がった。

1. 都道府県名	鳥取県	3. 公民館対象人口	1871人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	倉吉市	4. 建物設置年月日	昭和43年11月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	20台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (高城地区公民館管理委員会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 725人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1664人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 2,389人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (高城地区公民館管理委員会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (高城小学校、久米中学校、高城児童センター、上米積児童センター、食生活改善推進委員会、地区青少年健全育成協議会、子どもいきいきプラン実行委員会、地区社会福祉協議会、地区振興協議会、自治公民館連絡協議会、地区同和教育推進協議会、スポーツ推進委員)				

倉吉市高城コミュニティセンター

OPEN 9:00~17:00 (22:00まで利用可能)

TEL 0858-28-0950

H P

SNS

<http://www.ncn-k.net/kotakasi/>



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・高城地区は倉吉市の山あい位置し、緑豊かな大地に恵まれているが、耕作放棄地などの課題もあり、この緑を活かせる土地活用が求められる。
- ・地域活動における参加者の固定化、自治公民館や地域の役員等の担い手不足。
- ・子育て世代が便利な市街地に出てしまい、地区内の子育て世代が少なく少子化が進んでいる。
- ・住民が集う機会や場所が少ない。特に、妊婦を対象とした集う場、乳幼児と交流する場がない。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【地域づくり講座「Yellow」プロジェクト『いざいざ高城』～菜の花がつなぐ まちおこし交流～】（地域資源を活用したまちづくり）

地域の現状や課題に応じたテーマを設定し、市から委託を受け公民館研究指定事業として実施した。住民が主体的に企画運営に関わりながら、学んだ成果を地域の課題解決につなげることをめざし取り組む事業である。

高城地区は、緑豊かな地区であるが、耕作放棄地もある。この高城大地を有効利用し、幸せを象徴するイエローカラーの菜の花を育てることなどを通じて、たくさんの方が楽しめる企画や事業に結びつけ、地域住民らが寄り合い、交流できる機会や場づくり、地域資源の再発見と活用、環境に配慮した地域づくりにつながるよう平成30年度から令和2年度までの3年間取り組んだ。1年目：菜の花畑に挑戦！、2年目：菜の花畑で他の作物にも挑戦！地域イベントにも貢献！、3年目：菜の花の輪を地域に広げよう！

【乳幼児クラブ（子育て支援）】

乳幼児とその保護者を対象に実施。事業の実施にあたっては、地区内にある児童センターと連携。妊婦、乳幼児、保護者が集い交流し、共に学び活動できる場所や機会の提供を行った。親子でふれあう時間を共有することで、お互いの存在を認め合い、前向きに楽しく育児ができるよう保護者支援を目的として取り組んだ。高城地区を知ってもらうために他地区・市外からも参加を受け入れた。



菜の花の種まき



ミニコンサート

3. 取組による成果や効果

【地域づくり講座「Yellow」プロジェクト『いざいざ高城』】

- ・地域資源を利用した学びや活動を通じ地元地域を見直してもらうきっかけになり、自分たちの知恵と力で地域を元気に、住民に喜ばれる活動にしたいという意欲の醸成につながった。
- ・今まで利用されず人の姿もほとんどなかった土地が、地域住民が集い楽しめる憩いの場に少しずつ変化していった。

- ・地域イベントで活動を周知したり、採種した菜種を全集落に配布し、地区内全域に広げた。

【乳幼児クラブ】

- ・コロナ禍で親子が引きこもりがちになる中、日々の育児ストレスが軽くなったという声が聞かれた。
- ・子育て世代にとって、また乳幼児の頃から地域に慣れ親んでもらうきっかけを作った。



菜の花畑看板づくり

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・事業の実施ごとに振り返りと評価を行い、毎月事業報告書にまとめ市へ提出している。
- ・3年間実施する研究指定事業においては、特にPDCAサイクルを意識して1年ごとに評価を行い、次年度の計画に活かしている。運営委員会を事業実施前後及び中間等年6回程度開催し、職員だけでなく企画運営に参画する住民等とも振り返りを行っている。
- ・地区の関係団体等の委員で組織する公民館管理委員会を年1回程度開催し、事業の企画実施について調査審議。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・心を豊かにする文化活動、協働活動を通じ地域づくりに進んで参画する人づくり。
- ・住民の活躍の場と生きがいづくりを支援すること。地域人材の活用、学習成果の還元。
- ・地域への関心、愛着と誇りを育み、高城の伝統文化を次世代に継承していく取り組み。
- ・地域で支え合い、人と人とのつながりを深める交流活動。連携協働による次世代育成。



高城牛追掛節

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ・人づくりを中心とした社会教育機能に加え、住民主体による地域づくり活動を支援する地域の拠点施設として、福祉や防災など地域の課題を地域住民自らが解決していく共助の取り組みを後押しし支援する役割が求められており、それに答えていく必要がある。
- ・コロナ禍でも地域のつながりを育む活動、情報技術を活用した新たな学習方法に挑戦する。



感染症予防教室

プールでつながる隼の輪

八頭町隼地区公民館



プルー斉清掃後の集合



隼プール祭りの様子

公民館の沿革・年表

- 昭和 5 年 隼プール建設（山陰初の長水路プール）
- 昭和 2 8 年 旧船岡町「隼公民館」として設置
- 昭和 5 9 年 現在地に「研修センターはやぶさ」として新築（体育館併設）
- 平成 9 年 6 7 年を経て新「隼プール」を同地に改築
- 平成 1 7 年 合併により「八頭町隼地区公民館」として再スタート
- 平成 2 9 年 隼小学校が閉校となる

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

【左写真上】隼地区住民、八頭町、日赤奉仕団、小学校、中学校職員・生徒等約100名、新たに隼Lab.入居企業、子ども会、まちづくり委員会も加わり、地区一丸となってプールの清掃を行った。地区にとっては大切なイベント。

【左写真下】昭和41年に始まり、50回の祭りでは、オリンピック4大会出場の松田丈志さんと桂三風さんをお招きして、実技指導、トークショー、プールサイド寄席を行った。

1. 都道府県名	鳥取県	3. 公民館対象人口	990人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	八頭町	4. 建物設置年月日	昭和59年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 100人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1400人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 200人 (連絡調整、役員会、実行委員会等)				合計 1,700人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 2人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (隼地区全戸の負担金)				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (隼地区まちづくり委員会、隼地区子ども会、隼老人クラブ、隼地区婦人会の支援)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (体育館) <input type="checkbox"/> 自由記述 (婦人会等の団体が公民館を拠点とし、自分たちの公民館という意識を持っている)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 隼地区まちづくり委員会、隼地区子ども会、隼老人クラブ、隼地区婦人会、隼Lab. (管理会社シ-セブン及び入居企業)、隼創生会、日赤奉仕団				

八頭町隼地区公民館

OPEN 8:30~17:15 H P
TEL 0858-72-1611 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●隼小学校が閉校となり、運動会、プール祭り、プルー斉清掃等が公民館単独での開催となった。集落の次に大きなコミュニティとしての隼地区を持続していくため、公民館が中心となって隼創生会（地域課題解決組織）、隼地区子ども会を組織し、隼地区まちづくり委員会等地区の他団体との連携や、共催事業を実施。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

●【隼プルー斉清掃（地域資源を活用したまちづくり）】教育委員会、日赤奉仕団、まちづくり委員会、小中学校、PTA、子ども会、隼Lab.等多数の方に参加を呼びかけ、約100名が参加している。毎年6月初旬に年1回実施しており、この活動の継続は、「**地区のプール**」との意識の醸成に繋がっている。

●【隼プール祭り（地域資源を活用したまちづくり）】50回の開催を数え、毎年400名近くが参加。小学校閉校後は歌われなくなった「水泳の歌」の子もたちによる歌唱や、有志による演芸、集落対抗水泳リレー、宝拾い、お楽しみ抽選会などあらゆる世代の方が参加される地域の一大イベントとなっており、地域住民のほか帰省客の楽しみとなっている。

●【隼地区駅伝競走大会（健康づくり）】大人から小学生までが選手として参加し、隼地区を巡る駅伝。令和2年度で55回を数える当公民館最長寿のスポーツ大会。

●【隼地区敬老会（その他）】敬老者に**多数参加**して楽しんでいただくため、バス運行による送迎の充実や地区外からの演者招請による演芸の多様化を図っている。また、参加者の負担軽減のため、従来着座方式であったものを椅子方式へ変更したり、土足シートを利用して靴を履き替えなくても利用できるようにするなど、運営方法の見直しを行っている。

●【公民館だより（その他）】隼地区の方々に公民館活動を知って頂くため発行。行事予定や事業の紹介、地区の出来事を記載し、地区へのフィードバック。



体が楽な敬老会



プールサイド寄席

3. 取組による成果や効果

●隼プールへの思いが強い方が多く、一斉清掃をすることで「**自分たちのプール**」を大切にしたいとの思いが醸成されている。またプール祭りへの多数の参加に繋がっている。

●隼プール祭りの会場設営には多くの方々に関わることでスタッフも充実し、地区を挙げた楽しい行事となっている。

●隼地区駅伝競走大会では、集落単位のチーム編成に加え混成チームも誕生。周辺街頭の応援もあり、選手の走り甲斐にも繋がっている。

●「敬老会が楽しみになった。」といった声が聞かれるように。対象者の半数近くが参加。



隼地区公民館だより

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

事業の実施に当たっては、実行委員・体育委員・集落役員の意見を聞きながら実施している。

隼プール祭り、隼地区敬老会では反省会を開催するほか、講座等一部事業ではアンケートや対面による聞き取りを行っている。全体的な検証機会は八頭町公民館運営審議会のほか、老人会や婦人会、PTAなど各種団体長で構成する隼地区公民館運営委員会を開催し、地区住民の意見を伺い総括している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

隼プール等の地域資源や人材を活用し、地区住民のニーズに応える活動を行うとともに、子どもたちの未来へつなげるよう事業を実施し、もって持続的な隼地区の実現を図る。

【キーワード】隼に生まれ、育ち、暮らしてよかった。



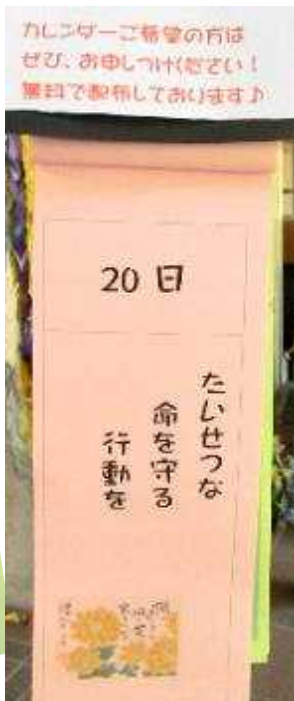
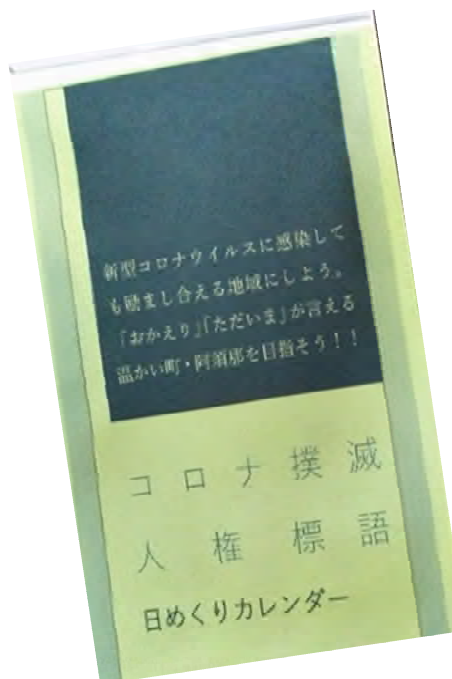
プール側壁のリペイント

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 人材データベースを整備し、どんな仕掛けができるのかを考え、そして実践する。
- 地区住民のニーズに沿い、適宜スクラップ&ビルドを行い、様々な世代の参加による公民館事業の展開。
- 世代間交流事業の推進。



世代間交流GG大会



公民館の沿革・年表

平成8年3月 旧阿須那中学校閉校 教育文化ゾーン建設
 平成9年4月 はすみ文化プラザ（阿須那公民館）竣工
 平成16年10月 町村合併により邑南町阿須那公民館（はすみ文化プラザ）としてスタート
 平成24年 優良公民館表彰（県教育長表彰）を受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

○コロナ撲滅人権標語日めくりカレンダー
 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、感染した人への誹謗中傷による人権侵害が社会問題となった。そこで、地域住民の人権意識を高めるとともに、だれもが安心して暮らせる地域をめざし、地域住民から人権標語を募集した。集まった標語と、阿須那小学校の児童が作った標語も含め日めくりカレンダーを手作りで作成。地域の希望者や福祉施設などへ配付した。

児童と地域で考えた標語で「コロナ撲滅人権標語日めくりカレンダー」完成

1. 都道府県名	島根県	3. 公民館対象人口	651人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	邑南町	4. 建物設置年月日	平成9年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 251人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 3874人 (児童クラブ3527人)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1827人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 112人	合計	6,064人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 (職員のうち社会教育士の数 1人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 合計 3人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	阿須那保育所・阿須那小学校・羽須美中学校・阿須那地区応援隊・YUTAかプロジェクト・邑南町・阿須那地区4自治会・読み聞かせサポートセンター・阿須那地域支え合い会議・阿須那児童クラブ

邑南町阿須那公民館

OPEN 8:30~17:15 H P
 TEL 0855-88-0001 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 高齢化率が高く独居世帯が多いため、日常生活における不便さを感じる住民が多い等の問題がある。そうした中、より安心して暮らせる地域にしていくため、住民相互のつながりを強め、**家族のように付き合える関係性**をつくる必要性を感じている。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、感染した人への誹謗中傷が社会問題となるなど、人権意識向上の必要性が浮き彫りとなった。家族のような安心・安全なつながりづくりに向けて、**改めて人権意識の向上を基盤として**とらえ、人権について学ぶ取組を公民館が中心となって進めることとした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【移動公民館事業（健康づくり、高齢者の学び支援）】

公民館は「集いの場」であるが、公民館に集まるだけでなく公民館職員が自ら地域へ出かけ、地域に寄り添っていくことが、住民のつながりづくりには必要と考え、**各自治会単位や集落単位で行っているサロンに出張し、「移動公民館」として事業を展開**（例：同じ講座を6か所で開催）した。公民館に咲く花などを押し花にし、和紙に並べてラミネートしたもので行燈をつくる活動や、R1年度から始めた健康体操などを各地区に分かれて行い、コロナ禍であっても「集い」「学び」「笑顔」を取り戻せるよう教室を開催した。



健康体操

【コロナ撲滅人権標語日めくりカレンダー、人権講演会（人権問題）】

町教育委員会から、公民館ごとの「コロナ人権宣言書」作成が提案されたこともあり、**地域全体へ啓発していくきっかけとなる**取組として「コロナ人権標語」を募集した。さらに阿須那小学校の「人権標語」も含め、多くの作品が集まったことから「コロナ撲滅人権標語日めくりカレンダー」を公民館独自に手作りで完成させた。標語を提供した人や行政の担当課、福祉施設、個人にも無償で提供し50冊以上を配付した。



障がい者の人権講演会

また、R2年度は「障がい者の人権」をテーマに地域全体で学ぶため、事故で障がい者となった方を講師として招き、歌で伝える人権講演会を開催した。

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果や効果】

- コロナ禍でありながらも公民館事業の参加者の増加がみられた。
- 「コロナ撲滅人権標語日めくりカレンダー」の作成を通して、より幅広い住民と人権問題について考えることができた。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- 公民館が身近な存在である**という認識がさらに広がっている。
- 安全安心な関わりの基盤である**人権意識の高まり**がみられる。
- 住民の自発的な取組が生まれてきている。

公民館 移 動	年度	件数	参加者
	H30	4	105
	R1	6	150
	R2	11	153

R2は例年のコンサート(H30 30名)と4件カルタ大会(R2 80名)を未実施

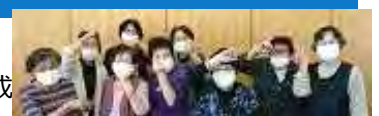
人 権 事 業	年度	件数	参加者
	H30	1	70
	R1	1	10
	R2	4	96

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学校教育・社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う人、学識者等12名で構成する公民館運営審議会を年間1回開催。
- 各種サークルの代表や地域団体の代表、有識者等16名を公民館活動推進員とし、年間5回程度会議を開催。
- 活動の振り返りの中で課題や改善点等について話し合い、**多様な意見をふまえながら**改善を行い、公民館運営を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 毎年同じ事業をするのではなく「振り返り」から課題を見つけ、次のテーマとして取り組むこと。
- 公民館は**誰一人取り残さない地域づくり**、住民がともに支え合い故郷に生きていく気運を醸成していくために、「何のためにするのか」、「何をしなくてはならないか」を考える。



笑顔の参加者と自作のSDG sカラーのプレスレット

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 昨年度発足した地域運営組織に公民館も委員として関わることを強みとし、公民館も一つの軸となって事業を共同企画することで、組織目標である「オールあすな みんなで支え合う」を実現していく。
- ①高齢者の憩いの場（サロン）②子育て世代のグループ化（ミニカフェスペースの確保）③児童の願いで復活したキャンプ場の活用④公民館から離れた地域におけるINAKAイルミのサポート



「INAKAイルミ」というイベントを公民館として今後も支援



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

北房地域で伝えられてきた有形無形の文化遺産は、少子高齢化・人口減等もあり、未来への継承が危惧されており、文化遺産の保護や活用の担い手となる人材や団体の育成が課題となっています。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【まに大（まにわ大楽の略）附属ふるさと研究所】

当公民館では、ふるさとの文化や歴史を学び、ふるさとへの愛情と誇りを育てる“郷育”の一環として、住民自らが行政や大学と協働で、地域の文化・歴史及び地域史の在り方を学び、その成果を地域に伝え、次世代に引き継ぐ活動を公民館講座として行っています。参加者は、年間の学習や体験を通じ、地域の歴史や文化遺産に関する知識習得だけでなく、次世代への継承に必要な方法を皆で考え、終了後は文化遺産継承の担い手として活動いただくことを目指しています。活動成果は、地域住民を対象としたプレゼン報告会や小学校での子ども達への出前講座など文化遺産の普及啓発に繋げ、地域へ還元していきます。

【北房てらこや教室】

真庭市北房振興局と公民館共催事業として、土曜日や長期休暇等を利用した放課後こども教室を実施しています。文化協会、地域の方、学生ボランティア皆さんの協力をいただき、習字教室、自然体験教室、料理教室などの豊富な内容で多様な学びを提供し、地域との交流事業を行っています。



北房の文化遺産について

3. 取組による成果や効果

（効果）

- ①歴史資源を文化遺産として認識する機会を得たこと
- ②文化遺産を未来（次世代）に残していくという講座生の結束が持てたこと
- ③文化遺産が新たな地域活性化に繋がるという意欲の醸成に繋がったこと
- ④子どもたちに文化遺産を伝える郷育の足掛かりとなったこと
- ⑤文化遺産の保存・活用のため、住民による歴史民俗資料館（北房ふるさとセンター）のリニューアル及び解説展示の活動へ取り組む機運が盛り上がっていること
- ⑥文化遺産の掘り起こし及び活用による地域づくりの各種団体との連携の輪が広がりつつあること



まに大附属ふるさと研究所
受講の様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

取組を行う中で、関係者や参加者とその都度意見交換を重ね、適宜検討、改善しています。具体的には、まず第一に文化遺産を掘り起こす取組が、周辺の地域住民の理解と協力が得られるよう、活動の意義や成果の啓発活動の充実の是非を問う検証を行っています。第二に啓発が不十分な場合、積極的に地域に出かけて、活動報告会等、出前講座を進めています。第三に、新たな文化歴史資源の発掘のための研修を適宜設けています。第四に貴重な文化歴史資源を地域外はもとより県下、さらには全国に向けたデジタルによる発信方法を検討しています。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館は、学習拠点としてだけでなく、**人と人がつながる場**として重要な役割を担っています。住民のニーズや地域の特性に応じた**多様な学習機会の提供**を行いつつ、社会情勢に的確に対応した取組や、子どもや若者、子育て世代も含め住民全体が**気軽に集え、互いに交流する拠点**にならなければなりません。

そこで北房公民館では、幅広い年齢層に向け、学習講座や体験活動のメニューを用意し、地域の方、子どもも参加しやすい雰囲気づくり、老若男女集える取組を行っています。さらに、公民館が子育て世代の保護者や子どもたちの居場所として提供できるようサロン機能の工夫・改善に努めています。常に地域住民のニーズ把握と現代的課題の解決に向けた公民館を目指しています。



公民館講座「もちつき大会」の様子

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

これからの公民館は、地域社会の教育施設として子どもたちに向けた“郷育”の推進、“人づくり”への核としての貢献できるよう取組を進めなければなりません。また食育・食文化の推進を含めた世代間交流も必要です。なぜなら食の安全安心はコロナ禍において喫緊の課題となるからです。

そのためには、学校・地域・家庭の連携を促進し、関係機関や団体と協力しながら、地域のニーズや社会の動きを察知し、地域住民に必要な施設として存在していけるよう事業を展開していきたいと考えています。

さらに、コロナ禍の新たな生活様式の変化に対応できるよう、研修や学習機会の充実に向けたシステムの構築のために、設備のデジタル化やIoT並びにAIを活用した施設機能の在り方を追求する必要があります。加えて、事業推進に当たってはPDCAサイクルによる事業充実が喫緊の課題です。常に地域住民のニーズ把握と現状との問題点を整理しながら現代的課題に応えられる公民館の在り方を目指しています。



世代間交流の料理教室講座の様子

みんなが集う場所中央公民館

浅口市中央公民館



夏GAKUサプリ・プログラミング体験教室



市民体育祭

公民館の沿革・年表

昭和52年 鴨方町中央公民館(鴨方町民会館) 開館
 平成18年 合併に伴い浅口市中央公民館に名称変更
 平成28年 耐震工事
 令和2年 フリーwi-fi導入

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

●夏GAKUサプリの様子

公民館と学校・地域が協働して市内小学生に多様な学習機会を提供し、児童の学力向上を図っている。写真はプログラミング体験教室の様子で、夢中で講義に参加していた。

●地域の絆をつくる市民体育祭の様子

地区対抗で開催しており、どの地区にも負けじと必死に取り組んでいる。地域の親睦の場として、毎年、3000人以上の参加があり、盛大に開催している。

1. 都道府県名	岡山県	3. 公民館対象人口	33836人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	浅口市	4. 建物設置年月日	昭和52年6月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	350台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会)	<input type="checkbox"/> その他 ()		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1529人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 12936人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 350人	合計	14,815人
	<input type="checkbox"/> その他 0人 ()				
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 10人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 13人
	(職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人	職員のうち社会教育士の数 0人)			
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算	<input type="checkbox"/> 委託金	<input type="checkbox"/> 自治組織等予算	<input type="checkbox"/> 寄附等	<input type="checkbox"/> その他 ()
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> その他 ()		
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input type="checkbox"/> 子ども食堂	
	<input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	
	<input type="checkbox"/> ICTの活用	<input type="checkbox"/> 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (天草公園、鴨方図書館や健康福祉センターが隣接しており、多様なサービスを受けられる。)	<input type="checkbox"/> その他 ()			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 大学	
	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	<input checked="" type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関	
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 博物館	<input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他	
	(ボランティア人形劇サークル「風の子」、おはなしボランティア「にじの会」、浅口市内小中学校、浅口市内高等学校、(株)ヤクルト、岡山天文博物館、総合型スポーツクラブ、子ども会指導者クラブ、玉島警察署 他)				

浅口市中央公民館

OPEN 9:00~17:00 H P <https://www.city.asakuchi.lg.jp/shisetu/shogai/public-hall.html>
 TEL 0865-44-7001 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

市内小・中学生の学力を向上させようという市の目標があり、夏GAKUサプリは学力向上NO.1プロジェクトの一環として開催している。

公民館講座や子ども向けの体験活動教室について、多様な講座を開催出来ているが、講師やボランティアの指導者の高齢化が進んでいる。長期的に考えると、指導者の新しい人材の確保、育成が必要である。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの事業の実施など、ICTの活用が必要である。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【小学生を対象にした夏GAKUサプリ（特徴的な活動）】

市内小学生の学力向上を目的に、夏休みを利用して、公民館と学校・地域が協働し、地域の中高校生や企業、ボランティアグループが多様な教室を開講している。児童に普段体験できない学習機会を提供し、学習意欲の向上や公民館へ足を運んでもらうきっかけづくりになっている。プログラミング教育の必修化に合わせ、プログラミング体験教室を実施するなど市民のニーズに合わせ、教室を企画している。

【地域交流、親睦を目的に浅口市市民体育祭鴨方大会を開催（特徴的な活動）】

浅口市市民体育祭鴨方大会は、同館に隣接のふるさとかがたプラザで開催され、世代を超えてスポーツやレクリエーションを通じて地域の親睦や交流を図ることを目的に実施している。地区対抗で実施しているが地区の垣根を超えた地域の親睦の場になっており、毎年3000人が参加し、盛大に開催している。（R2・R3は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止）

【天文のまち「あさくち」（運営の工夫）】

岡山天文博物館60周年を記念して、「はやぶさ2」のトークライブを実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講師はリモート出演、聴講は同館大ホール又はYouTubeのライブ配信とし、多くの人に視聴してもらえるよう工夫した。



夏GAKUサプリ・えいごであそぼう



市民体育祭鴨方大会

3. 取組による成果や効果

特徴的な取組による成果・効果

- 公民館と学校・地域が協働して市内小学生の学習支援をすることで学力向上を図る。
- スポーツやレクリエーションを通して地域コミュニティのつながりを強くし、相互の親睦と団結を図り健康と体力増進を図る。

これまでの取組全体による成果・効果

- 多世代に向けた公民館講座を開講し、講座を通して地域コミュニティを形成をしている。



夏GAKUサプリ・自習コース

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識経験者やPTA、小・中学校長で構成される公民館運営審議会において、公民館の年間事業の計画や反省を行い次年度事業に反映している。
- 市民体育祭鴨方大会において、検討委員会、実行委員会、反省会を開催し、市民体育祭の改善を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

同館は社会教育施設として年代を問わず地域の交流の拠点としての役割を果たすことを大切にしている。同館を活動拠点に公民館講座卒業生が自主的にグループ活動を続けており、地域のコミュニティづくりに貢献している。また、講座などを通して形成されたコミュニティだけでなく、公民館で居合わせた人が挨拶を交わすことから新しいコミュニティを作れるようにしたい。



公民館講座・陶芸

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

これからも引き続き、同館が学びの場としてだけでなく、地域の交流の拠点としての役割を果たしていきたい。そのために、様々な年代を対象に公民館の事業を企画していく。特に、来館の少ない若者や親子で浅口市中央公民館に足を運んでもらえるように事業を企画したい。また、フリーWi-Fiも導入しており、事業に積極的に活用していきたい。



SNS発信講座の様子

「避難所運営訓練」での受付の様様



「2019防災フェア」で親子で楽しく「防災すごろく」



公民館の沿革・年表

- ・昭和45年 4月 安芸町公民館開館
- ・昭和49年11月 広島市温品公民館と改称（市合併）
- ・昭和51年 4月 温品公民館だより 1号発行
- ・昭和54年 6月 広島市温品公民館運営委員会設置
- ・昭和54年11月 第1回温品ふれあいフェスティバル開催
- ・平成 2年 2月 外壁明装工事完了
- ・平成30年 9月 「2018防災フェア(第1回)」開催
- ・令和元年 9月 「2019防災フェア(第2回)」開催
- ・令和 2年 9月 「避難所運営訓練」開催

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 「避難所運営訓練」での受付の様様
令和2年9月に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「防災フェア」の規模を縮小し、防災士及び地域の町内会長等(88名)で実施。指定避難所を使用して、会場設営から、設備点検、受付など、地震を想定した訓練を実施。
- 「2019防災フェア」で親子が楽しみながら防災を学ぶ
地域団体等の協力を得て、公民館全体及び小学校グラウンドを使って、土石流発生装置、防災すごろく、防災づくり等を実施。防災について、楽しく、「見て・体験して・食べて学ぶ」。

1. 都道府県名	広島県	3. 公民館対象人口	12941人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	広島市	4. 建物設置年月日	昭和45年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	1台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（(公財)広島市文化財団） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1250人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8145人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 5,130人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 13226人（ ）				合計 27,751人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 1人） 合計 4人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他（平和教育、男女共同参画社会対応等）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（花ボランティアと共に一年中花いっぱい公民館づくりを行っている）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 温品幼稚園、温品・上温品小学校、温品・上温品児童館、温品中学校、安芸高校、東保健センター、東警察署、東消防署・東区消防団、福木・温品地域包括支援センター、JA広島温品支店、各種地域団体				

広島市温品公民館

OPEN 8:30～22:00

H P www.cf.city.hiroshima.jp/nukushina-k/

TEL (082)289-0256

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 当地域は山に囲まれ、ほぼ中央に川が流れ、田畑も点在するなど豊かな自然に恵まれているが、反面、**大雨時には川の氾濫の危険性が高く、多くが土砂災害警戒区域に指定されている**。近年、当地域でも護岸崩壊などの災害が多発しており、また、大正15年の豪雨災害の惨状を後世に伝える水害碑も設置されていること等から、**地域住民の災害に対する危機意識は高い**。
- 平成26年8月20日の広島豪雨災害を契機に自主防災会メンバーの防災意識が高まり、平成28年以降、地域の防災士が年々増加しており、活動の場が求められている。（現在 防災士24名）

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【住民主役の安全・安心なまちづくり ～公民館と防災士を中心とした「地域防災事業」～（地域防災・減災）】

上記の課題から、①防災士のスキルアップ、②防災士の学習成果の還元、③地域住民の絆づくり、④地域防災力の向上といった事業を実施。

● 防災士のスキルアップのための事業

①防災学習会・研修会：**防災士が中心となって月1回のペースで会議を開催し**、防災フェアの企画や研修会などを実施。②紙芝居「温品水害碑物語」の作成：大正15年の水害を後世に伝えるため、**女性防災士が中心**となって令和元年度に半年かけて作成。

● 防災士の学習成果還元・地域住民の絆づくり・地域防災力の向上のための事業

①防災フェアを毎年9月に開催：平成30年度・令和元年度は、公民館全館と小学校グラウンドを使用し、女性会等の地域団体、消防署等の協力を得て、避難所受付シミュレーション、防災クイズラリー、避難所運営訓練ゲーム、防災すごろく、防災紙芝居、土石流発生装置、防災食づくり等を実施。約1,500名が参加。**防災について、見て、体験して、食べて学ぶ**。令和2年度は、指定避難所である小学校体育館を使用して、地震を想定した避難所運営訓練を実施。防災士、町内会長及び自主防災会長等88名が参加して、**会場設営から設備点検、受付、設定した居住区エリアへの案内までを行い、自分たちが主体的に運営することの大切さを学ぶ**。②女性のための防災講座：女性防災士が講師となり、女性を対象に避難所運営ゲームを実施。



防災学習会の模様



避難所運営訓練の模様

3. 取組による成果や効果

【防災フェア等のイベント開催による成果・効果】

- **公民館が拠点**となり、防災の必要性を感じていた人たちの力を結集し、連携。
- 地域住民の自主的な防災意識の高まり
- 県内でもモデル的な取組みとして紹介（中国新聞等）
- 防災士を主とした地域リーダーの育成
- 防災士の学習成果の還元と活動を通して新たな課題をみつけていく学びと活動の循環

【これまでの取組全体による成果・効果】

- 地域住民主体の事業運営を行うことで**一過性ではない継続した学びの場へ**



女性リーダーの育成

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 毎年「公民館自己評価」を行い、利用率等を数字で客観的に分析
- **事業実施後に参加者アンケートを実施**し、満足度や意見・感想を調査し、毎回見直しを図る
- 当館運営委員会で事業報告と事業計画を提出し、学習ニーズや地域課題に対応しているかを協議
- 館長が学校協力者会議や地域団体総会等に参加し、多様な意見を公民館運営に反映させる

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- **地域の拠点機能を果たす**ために地域団体等との連携等を密にし**人と人をつなげる公民館に**
- 地域を知り、住民との対話から課題とニーズを把握し、**住民主体**の学習機会を提供
- 地域リーダーの継続的活動の支援と参加者との学び合いによる**学びと活動の循環**
- **郷土愛を育む**ために幼少期から地域とつながる魅力ある事業を。将来**地域を担う力へ**



小学2年生公民館見学

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 現在の多くの学習グループは高齢化のために将来解散する可能性が高い。今後は、**若い世代を対象とした小さなグループ**からでも**利用者を増やす**必要がある。
- 少子化の中、**子どもたちの地域交流・体験は重要**で、この地域で楽しい体験・ふれあいの場をたくさん提供したい。それが自分の地域を大切に、**地域で生きる意識の高まりにつながる**。



子どもたちのものづくり体験



重井中学校 × 重井公民館
地域のシンボル 白滝山

公民館の沿革・年表

- 昭和33年 因島市重井町に重井公民館 設置
- 昭和38年 重井公民館 新築落成
- 昭和58年 因島大橋 開通
- 平成14年 現重井公民館 新築落成
- 平成18年 尾道市と合併 尾道市重井公民館

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

重井町のシンボル 白滝山への
新入生歓迎登山遠足

自分ではめったに登らない白滝山頂から
ふるさと重井町全域と水平線を臨み、
生徒は「重井の子ども」であることを、
再認識します。

1. 都道府県名	広島県	3. 公民館対象人口	3,400人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	尾道市因島重井町	4. 建物設置年月日	昭和33年4月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1250人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 4774人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 50人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 3888人 () 合計 9962人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人 (公民館運営協議会職員2人)				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (老人集会所) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 重井地域の唯一の公共施設であり、文化、教育、芸能、等情報の発信と交流を推進する。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (重井町区長会 民生委員児童委員協議会 重井地区社会福祉協議会 重井町文化財協会 重井町老人クラブ 重井公民館運営協議会 因島鉄工業団地 因島商工会議所 PLUSink)				

尾道市重井公民館

OPEN 9:00~21:30 H P <https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/site/kyoiku/3101.html>
 TEL 0845-25-0016 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

以前は「除虫菊の里」として因島の中で隆盛を極めた重井町も、時代の変遷の中で人口が3,400人ほどに減少し、人口の減少とともに少子高齢化が進む地域となった。住民のニーズは交流人口の増加と持続可能な地域づくりであり、地域づくりの基盤は「人づくり」であると考え。こうした中、重井中学校は「SDG's」を総合的な学習の時間のメインテーマに据えた取組を進めており、コミュニティの中核である公民館がハブとなって中学校教育に地域人材や地域資源を提供することで、「社会に開かれた教育課程」実現の一助になろうとした。地域の宝である学校を地域内の諸団体が「協働」して支援することで、持続可能な地域づくりに貢献できる人材を育成しようとするための取組である。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【オール重井で協働のまちづくり隊（子どもの体験学習、若者のまちづくり参画、防災、地域資源を活用したまちづくり）】

重井中学校は、地域を知り、地域を体験し、地域の未来を考え、自分はどう生きるかを考えるストーリーで「持続可能な地域」「持続可能な社会」を学ぶ「SDG's」を総合的な学習の時間に位置付けており、公民館を会場とした授業や、公民館が紹介したゲストティーチャーによる授業を展開している。令和2年度には、次のような各学年の学習を公民館として支援した。

● 1年生 重井を知る

○ 7月29日（水）夏季特別講座（ふるさと学習）

- ①重井の昔と今 ②因島の花「除虫菊」③重井の農業の秘密と魅力④重井のシンボル白滝山
- ⑤ものづくりの魅力 の講師を選定し中学校へ紹介した。

○ 11月5日（木）炊き出し体験学習

平成30年7月の西日本豪雨では重井町も甚大な被害を受け、その傷跡が現在も残っており、少子高齢化が進む町内においては中学生も避難所運営に携われる人材になってほしいという期待から、公民館の炊き出しセットを使用してもらい、災害時について考えてもらった。

● 2年時 重井を体験する

○ 8月25日（火）「生き方」講座

地域の名産である「はっさく大福」の製造業者を中学校へ紹介し、「はっさく大福」に込めた思い、ふるさとを愛する思いを学習してもらった。

○ 3月1日（月）「はっさく大福」づくり体験学習

8月の「生き方」講座の講師に体験学習を依頼し実施した。生徒に「はっさく大福や地域に愛着がわいた」「地域の名産を広めたい」という感想をもたせることができた。

● 3年時 重井の未来と自分の生き方を考える

○ 2月22日（月）「持続可能な重井を考える」講座

大阪で活躍している重井町出身のコピーライターと、横浜と因島大浜の両方にオフィスを構えるデザイン会社の経営者を講師として中学校へ紹介し、卒業を控えた3年生が将来の自分に思いを巡らせ重井どう関わっていくかについて考えてもらった。



夏季特別講座「重井の昔と今」



炊き出し体験「紙の皿づくり」



「はっさく大福」づくり体験

3. 取組による成果や効果

- 重井公民館と連携した教育について中学校が紹介した「学校だより」を地域に配布することで、地域の学校教育への関心が高まった。
- 地域の学校教育への関心が高まり、子供や孫が中学校に在籍していなくても、学校行事を参観する地域住民が増加した。
- 中学校が行うアンケートや作文に「地域や公民館への感謝」「自分たちは地域に支えていただいている」ことを記す生徒が増加した。



「持続可能な重井を考える」講座

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 中学校が行う生徒アンケートや保護者アンケートを活用した検証と改善を行う。
- 重井公民館運営協議会において成果や効果と改善策について協議する。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

○改訂された中学校学習指導要領の実施に伴い、地域の宝であり、地域の要でもある学校には「社会に開かれた教育課程」の実施が求められている。教育における最大要素の一つが「人」であり、地域の人材バンクである公民館が「協働のまちづくり」を進めることで「社会に開かれた教育課程」を実現したい。



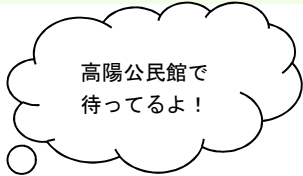
学校行事を参観する地域の皆様

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

○これまでの取組で公民館をハブとした、地域と中学校の関係を構築してきた。今後は義務教育9年間を通した「持続可能な重井」に貢献できる人づくりをめざしていきたい。現在、小中学校が組織している「重井教育研究会」の運営にも参加し、地域と一体となった学校教育の推進に貢献したい。



持続可能な地域を担う子供の育成



新マスコットキャラクター「こよよん」
深川・狩小川地域の豊かな水辺「三篠川」の妖精。



オレンジカフェこよう

公民館の沿革・年表

- 昭和48年 高陽公民館開設
- 昭和49年 第1回「高陽公民館まつり」開催
- 昭和52年 公民館だより第1号発行
- 平成5年 開館20周年（記念誌発行）
- 平成15年 旧マスコットキャラクター「こーよん」誕生
- 平成28年 第1回「いこうようサロン」開催（10月）
- 平成29年 ボランティアグループ「オレンジスマイルこよう」結成
- 平成30年 第1回「オレンジカフェこよう」開催（4月）
- 平成30年 西日本豪雨災害で浸水（7月）
- 令和3年 新マスコットキャラクター「こよよん」誕生

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

（上）高陽公民館新マスコットキャラクター

耐震改修工事に伴い、マスコットキャラクターを一新し、豊かな自然に囲まれた高陽公民館の新マスコットキャラクターとして主催事業で積極的に活用。これまでの職員が作成したキャラクターのかわりに、新しく一般公募し、77点の応募作品の中から、地域住民の投票によって選ばれた(令和3年5月)

（下）毎月第4月曜日に開催する「オレンジカフェこよう」の風景

ボランティアが主体となって内容を企画・運営し、地域の方々が認知症の正しい知識を習得することができる場として、また、認知症の人やその家族が気軽に交流・相談できる場として定着してきている。レクリエーション1・2と歌の三部構成で、毎回3時間と長時間の催しであるが、栄養や認知症などの学習会、体操、座談会など多彩な内容で、参加を楽しみにしている人も多い。

1. 都道府県名	広島県	3. 公民館対象人口	12418人	5. 来館者のインターネット接続環境	有線・無線の両方
2. 市区町村名	広島市	4. 建物設置年月日	昭和48年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（公益財団法人広島市文化財団） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1964人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8513人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 3,575人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 6286人（個人利用）				合計 20,338人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 4人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> 自由記述（ ） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 （深川保育園、高陽中学校、狩小川児童館、広島文教大学ボランティア部、広島市高陽・亀崎・落合地域包括支援センター、国立広島死没者追悼平和祈念館、ソフトバンク株式会社、株式会社玉屋、蔵前工業広島県支部、安佐北区図書館、中央図書館、男女共同参画推進センター、安佐北警察署、深川女性会、深川地区防犯組合、JALティース深川支部、小河原・上深川地区社会福祉協議会、安佐北区地域ささえあい課、安佐北区地域おこし推進課、狩留家郷土史会、公民館登録グループ（人形劇サークル、おはなし会ボランティア、ふれあいサロンオアシス、オレンジスマイルこよう）ほか）				

広島市高陽公民館

OPEN 8:30~22:00

H P <http://www.cf.city.hiroshima.jp/koyo-k/>

T E L (082) 842-1125

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

認知症予防教室「いこうサロン」（平成28年10月から実施）で、認知症や認知症予防について学ぶ過程において、参加者からの要望で、認知症カフェの実施を目的としたボランティアグループ「オレンジスマイルこうよう」が立ち上がった（平成29年10月）。平成30年度から、同グループと連携して、認知症カフェ「オレンジカフェこうよう」を開設している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【学習成果の還元・地域住民のつながりづくり、憩いの場づくりのために！（少子高齢化社会）】

1 オレンジカフェ研修会（6回、85人）

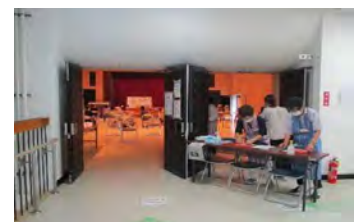
「オレンジカフェこうよう」で実施する事業をより充実させるため、運営ボランティアが研修内容を企画、実施し、ボランティア自ら認知症に関する知識を深めている。

2 オレンジカフェこうよう（6回、234人）

- ・認知症に関する正しい知識の習得や、認知症の人やその家族が気軽に交流・相談できる場所を提供する。
- ・看護師・介護士等の専門職が常駐し相談に乗ることにより、包括支援センターと連携した早期の対応を行う。
- ・地域住民の認知症への関心を高め、認知症の人やその家族が安心して暮らせるまちづくりへ繋げていく。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みとして、人数制限をし3密を回避。来館時の検温、消毒、マスク着用などを徹底した。また、カフェ風にコーヒーやお茶をのみながらの交流は効果的であり、参加者の楽しみであるため、ペットボトルや個包装の袋菓子を受付時に渡すように変更し、コロナ禍でも可能な方法で実施することとした。



「オレンジカフェ研修会」の様子



「オレンジカフェこうよう」受付と会場

3. 取組による成果や効果

1 オレンジカフェ研修会

- ・月に1回の定例会で、前回の「オレンジカフェこうよう」の反省や課題などを話し合い、今後の企画内容に反映させることで、スムーズな運営につなげている。
- ・テーマを決めた研修の他に、運営ボランティアが個々に研修してきたことを共有することで、研修内容の充実を図っている。

2 オレンジカフェこうよう

- ・リピーターや新規の参加者が増え、地域に定着してきている。
- ・参加回数を重ねることで、参加者同士の交流が進み、地域住民のつながりに発展してきている。
- ・専門職が常駐し、参加者がいつでも相談できる体制であることを前面にPRしたことにより、地域から相談窓口として認識されるようになった。
- ・これまでの運営実績が、運営ノウハウの蓄積となり、ボランティア主導の運営が軌道にのっている。
- ・参加者が運営ボランティアとして新しく事業に参画する事例があった。今後もボランティアの確保に努めたい。



研修会で次の内容を確認する

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

「オレンジカフェこうよう」では毎回、参加者へのアンケートを実施。翌月の「オレンジカフェ研修会」において、運営ボランティア、包括支援センターの職員などの専門職とともに、活動の振り返りを行い、アンケートの回答を踏まえて改善点等を話し合い次回に活かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館だけでは実施が難しいことも、ボランティアグループ、関係団体との連携により、地域住民の具体的なニーズに沿った細かな対応ができ、地域課題の解決につながっている。今後も継続した活動とするために、ボランティア、関係団体との連携を密にし、ボランティアが主体的に活動でき、その活動が円滑に進むように支援するファシリテーターとしての役割に徹することが大切。



司会（進行）もボランティア

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

「オレンジカフェこうよう」を継続していく中で、長く続けられ続けるほど、ボランティア自身の高齢化など、様々な問題が出てくる。それを見据え、活動をPRし、ボランティアを継続して募集していくことはもとより、活動を支えてくれる地域団体などと連携を強め、長く活動を続けていきたい。また、認知症は高齢者だけの問題ではないため、地域全体で考えていくことが必要である。そのために「オレンジカフェこうよう」が老若男女問わずつどい、つなぐ場となり、地域課題を解決していける場となるように、今後の事業を展開していきたい。

埴生 A Nice Day!



埴生公民館・埴生支所・埴生児童クラブ

埴生小中一貫校

施設配置図



連携カリキュラムの検討会（地域・子どもたちとともに）

山陽小野田市埴生公民館

公民館の沿革・年表

- ・昭和27年 埴生公民館開設
- ・昭和42年 全面改築
- ・平成20年 施設の管理運営が直営から地域委託館へ
- ・平成27年 施設の管理運営が地域委託館から直営へ
- ・令和元年 埴生公民館主催講座「文化交流を深めよう！」の開設
- ・令和2年 新施設として埴生支所・埴生児童クラブと併設し供用開始

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 埴生小中一貫校の隣接地に建設された埴生公民館・埴生支所・埴生児童クラブ（令和2年11月24日供用開始）
- 小中学生と住民が地域の将来の姿を考える熟議の模様
教職員と地域住民（学校運営協議会委員）、代表児童生徒らで作成した学校・地域連携カリキュラムでは、ふるさと発見学習、起業体験学習、防災学習などを行っている。ここでは、小中学生と住民が地域の将来の姿を熟議している。（埴生小中一貫校図書室にて）

1. 都道府県名	山口県	3. 公民館対象人口	3917人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市町名	山陽小野田市	4. 建物設置年月日	令和2年11月24日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会）	<input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 372人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 291人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 5093人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 200人	合計	5,956人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 2人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市町予算	<input type="checkbox"/> 委託金	<input type="checkbox"/> 自治組織等予算	<input type="checkbox"/> 寄附等	<input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> その他（埴生公民館運営協議会を設置し、評価等を行っている。）			
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（埴生小中一貫校と隣接しており、学社融合の取組を推進している。）	<input checked="" type="checkbox"/> その他（公民館、支所、児童クラブ）			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 埴生地区ふるさとづくり協議会、埴生地区自治会協議会、埴生小中一貫校、家庭教育支援チーム等

山陽小野田市埴生公民館

OPEN 9:00~22:00

TEL 0836-76-0066

H P <https://www.city.sanyo-onoda.lg.jp/site/habukouminkan>

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●本施設は、令和2年11月に、埴生小中一貫校から徒歩1分の距離にある敷地に移転した。また、埴生小中一貫校については、令和2年4月に小学校が中学校の敷地へ新築移転し小中一貫校として運用を開始している。平成28年から、埴生地域の将来を担う子どもたちの育成とよりよい地域づくりに向けて、埴生地域の核となる人材同士が**本音を語り合える場**として「**ハーブねっと本部会議**」が開催されている。小中一貫校と公民館が隣接している強みを活かし、公民館は利用者をさらに増やすとともに**地域と学校とのパイプ役**に努め、地域課題解決のため、**地域学校協働活動の拠点**としての役割を果たすことが、本館の大きな使命であると考え。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【学校・地域連携カリキュラムの作成（地域学校協働活動、コミュニティ・スクール）】

「ハーブねっと本部会議」では、小中合同ふるさと発見学習「THE 埴生学」や学校・地域連携カリキュラムの作成に向けた協議を重ねている。社会教育の視点として、そこに関わる大人とともに学び、考え、活動していくことが、埴生地域の**一体感の醸成**、地域の**教育力の向上**につながると考えている。子どもたちが、地域課題の解決に向けて地域の大人と話し合うことは、**子どもたちの主体性**、よりよい地域づくりにつながっている。地域の大人と一緒に考え、海岸清掃などの実際の活動につなげることで、学校課題と地域課題の解決、また地域の活性化にもつながる取組となっている。この取組を、学校・地域連携カリキュラムに生かすため、カリキュラム作成・検討の際には、**地域住民・子どもたちが参画**し、子どもも地域の大人も成長し合えるものとなっている。

【文化交流を深めよう！（日本語を母語としない住民の学びの支援）】

埴生地区で働く若い**外国人労働者**の方たちが一日でも早く日本の生活に適應できるよう支援するため、主催講座「文化交流を深めよう！」を開催している。外国出身の若者たちが、日本の言語や習慣、マナーを学びながら日本の生活に適應できるように支援している。また、参加した受講生には、公民館文化祭でのバザーのお手伝いなどをお願いし、地域の活性化にも尽力いただいている。令和2年度はコロナ禍により未実施だったが、令和3年度からは、「日本語教室」として、**地域住民を講師**として招き、再開している。



熟議で「えんたくん」を囲む生徒と地域住民



「文化交流会」折紙学習の様子

3. 取組による成果や効果

●小中一貫校の児童生徒が公民館を活用する機会が増え、地域住民や企業・団体等の関係者とのふれあい・学習・意見交換などによって、学びや体験が充実してきた。特に、中学生が**地域の一員としての自覚**や**自己有用感**を育むなどの成果が見られた。

●地域住民にとっても、学習の成果や地域の力が生かされることにより、生きがいや充実感を味わえるだけでなく、**将来の地域の発展に期待**を抱くことにもつながっている。また、子どもたちとともに協議した地域課題解決に向けた活動により、子どもたちの**一生懸命な姿**や**成長していく姿**を見て、次への活動に向けた活力につながっている。



海岸清掃

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●コロナ禍により、「ハーブネット本部会議」の開催が困難な状況であるが、学校・家庭・地域が連携・協働した取組を行うため、関係者と協議を重ね事業を推進していく必要がある。

●公民館の主催事業については、利用者に事業内容（内容や手法、時期など）を評価してもらい、その結果を集約する。そして、公民館運営協議会や公民館利用者会議などの協議の場で評価・改善策を検討している。その内容について、ホームページで公表する。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

●住民が自分たちでできること、やるべきことを自分たちでやるという基本方針のもと、住民が**学びを重ね**、**自治力を高め**て地域課題の解決を図ること、子どもたちには自分たちの地域を愛し、より良くしていくという**自覚と行動力の育成**を図ること、そのための支援をしていくことが何よりも重要だと考えている。



ふれあい文化祭

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

●公民館と埴生小中一貫校が**隣接している利点**を生かした取組をさらに充実させていく。

●公民館の持っている**地域資源**（ひと、もの、こと）を活かすため、「ハーブねっと本部会議」や学校運営協議会・地域教育協議会で有効な活用方法を示していく。

●今後、公民館を利用する人をさらに増やすために、参加しやすい曜日や時間帯の講座や事業の改善、現代課題の改善につながる講座などの実現を図る。また、若者を引きつけ、魅力ある公民館にするため**アンケートの実施**などを年度内に計画し、「行ってよかった、また行きたい」公民館にしたい。



オープニング・セレモニー



吉敷ふるさとまつり



夏まつりステージ企画「吉敷王は君だ!!」

公民館の沿革・年表

- ・昭和49年 吉敷公民館設置
- ・平成15年 現在の場所へ移転
- ・平成21年 「吉敷地域交流センター」へ名称変更
- ・令和 2年 山口県公民館報コンクール「優秀賞」受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

【上：吉敷ふるさとまつり】

日頃地域交流センターで文化活動を行っている団体の成果発表の場であり、地域住民が一堂に集う、活気あふれる吉敷地域の一大行事。運営を担う実行委員会は徐々に数を増やし、現在は総勢約70名ほどにのぼる。

【下：よしき夏まつり】

地域でつくり上げる、歴史ある夏まつり。20～40代の若い世代を中心とした企画委員が自由な発想で企画するステージイベントは、毎年大盛況となっている。

1. 都道府県名	山口県	3. 公民館対象人口	14719人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市町名	山口市	4. 建物設置年月日	昭和49年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	10程度
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1477人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 18225人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 421人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1300人 (地域づくり関係団体の会議等)				合計 21,423人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 6人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 8人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市町予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (講座参加費、輪転機使用料)				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (地域食堂)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政窓口・地域団体) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ()				

山口市吉敷地域交流センター

OPEN 8:30~17:15

H P <https://www.city.yamaguchi.lg.jp/soshiki/119/>

TEL 083-922-3915

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

● **地域内の繋がり希薄化**：新興住宅地が多い土地柄や少子化・高齢化、核家族化などが要因となり、**地域住民同士の繋がりや世代間の交流**が希薄になるとともに、住民（特に子ども〜若い世代）が「地域」に**主体的に関わる機会**が減少している。

● **地域づくり活動の拠点に**：平成21年の「山口市協働のまちづくり条例」施行を機に市内の「公民館」を「地域交流センター」に改め、生涯学習・社会教育活動のみでなく、**地域住民の自主的な学び**や地域づくり協議会をはじめとする地域コミュニティ等の活動の拠点とすることを推進してきた。市内各地域に地域づくり協議会を設置するとともに事務局を各地域交流センターに置き、地域としてこれから目指す将来像を共有しながら課題解決に取り組むため、地域づくり関係団体と連携し「協働によるまちづくり」を進めている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【“協働”による地域づくり（取組全体）】

地域づくり活動の拠点として、地域づくり協議会や関係団体等と地域課題やめざす将来像を共有しながら、各活動に協働で取り組んでいる。体育振興、青少年健全育成、人権学習推進をはじめ、地域が推進している地域福祉、交通安全・防犯対策、文化振興、環境づくり、防災など、活動は多岐に渡る。また広報活動においても、地域づくり協議会と連携し、平成28年度から公民館だよりを地域広報紙としてリニューアルした。各団体から選出された委員や地域活動経験者からなる広報委員会として、地域一体となった情報発信に取り組んでいる。

【実行委員会形式による行事開催（若者のまちづくり参画）】

かつて公民館が主体となっていた大運動会・夏まつり・ふるさとまつり等の各種行事を、地域づくり協議会とともに**地域住民が主体となる実行委員会形式**での開催へ移行してきた。地域に対する住民の当事者意識を喚起し、多くの方の参加や地域づくりの新たな担い手の発掘にも繋がっている。

【ＹＹよしきっ子クラブ（子どもの体験活動）】

主に小学生を対象とし、七夕、夏休み講座、クリスマス、しめ縄かざり作りなどの季節の行事を開催している。各家庭では難しい伝統文化体験の機会であるほか、センターで活動する団体や優れた技能を持つ地域住民に講師や準備(七夕の笹やしめ縄の藁など)を担ってもらい、**地域内・世代間の交流の場**にもなっている。休日や長期休暇中に開催することにより、親子での活動機会や休日の**子どもの居場所づくり**としても大切にしている取組である。



防災図上訓練



しめ縄かざり作り

3. 取組による成果や効果

- 講座への参加をきっかけに、かつての公民館のように地域交流センターを身近に感じてもらえるようになった。子どもの参加により、親世代にとっても身近な存在となっている。
- 行事参加者が家族・友人・知人を誘って一緒に参加するなど、担い手の輪が広がるとともに若者の参加も増加した。
- 地域全体の連携による「**地域のことは地域交流センターへ**」の意識の定着が図れる。
- 吉敷川のホタル保護活動など、**文化活動を通じた地域づくり**に取り組むことで地域コミュニティを深め、地域への愛着心が醸成される。
- 地域食堂、見守り活動の強化、教育機関との防災訓練の実施など、多くの団体との連携を基にした**生活に密着した地域づくり**により**住民同士のつながり意識**が強化されている。



人工飼育したホタルの放流

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 地域交流センター運営協議会は、自治会、地区社協、地域づくり協議会などの地域づくり関係団体のほか学校、幼稚園、PTAなどで構成し、年1回協議会を開催する中で、活動の振り返りや改善点等を議論し改善を行っている。また、講座参加者から聞き取った感想や気づきを元に、講師と随時協議し内容の見直しを行っている。
- 関係団体に相互に委員を選出するなど連携を密にし、また地域に開かれた組織とすることで新たな気づき・意見を改善に繋げている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

地域住民の身近にあり、困ったとき、行動を起こしたいと思ったときに、気軽に相談できる場所となるようにしたい。そのためには、地域づくり協議会等と連携し、職員が積極的に地域に出向き、ニーズや課題を把握するとともに、地域の協力や信頼関係を得ることが必要であると考えている。



地域協育ネット「あいさつの日」

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 子どもから高齢者までが気軽に利用できる場へ。いつでも賑やかで活気のあるセンターに。
- センターでの活動が若い世代により浸透するよう、SNSの活用や新たな企画の検討を行う。
- ふるさとまつり等で行っている活動発表の機会をもっと増やし、日頃の活動の成果や達成感を得られるような工夫を行う。



ふるさとまつりでのステージ発表



堀江公民館まつり



不法投棄パトロール

公民館の沿革・年表

昭29・11 板野郡堀江町大谷字中筋44番地に堀江公民館新築創立（木造平屋建）

昭37・1 第1回堀江公民館まつり実施

昭42・1 鳴門市と合併

昭56・3 鳴門市大麻町大谷字道の上24番地の元堀江農業協同組合（43年竣工）を買収し移転する

昭57・10 全館改修工事を行う

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

●「堀江公民館まつり」の様様

公民館で活動するサークル等が一齊に集まり、日頃の成果を発表する。大正琴やダンス、エイサーなどによる演奏や演舞、書道、大谷焼き、編み物など、様々な成果物を展示し、公民館利用者間の交流に繋げている。

●「不法投棄パトロール」の様様

公民館での活動を通じて地域内の交流を育み、様々な地域課題に取り組んでいる。

1. 都道府県名	徳島県	3. 公民館対象人口	5058人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	鳴門市	4. 建物設置年月日	昭和43年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 201人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3878人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 637人 <input type="checkbox"/> その他 0人（ <input type="checkbox"/> ）				合計 4,716人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 2人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（自治振興会等地域活動団体の事務局も兼ねており、地域に根ざした活動につながっている）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 認定子ども園すくすく、堀江北小学校、大麻中学校、大麻町商工会、大谷焼陶芸協会、堀江区自治振興会、大麻町社協、大麻婦人会、大麻人権推進協議会				

鳴門市堀江公民館

OPEN 9時～17時（22時） H P

TEL 088-689-0040 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

鳴門市堀江公民館が所在する鳴門市大麻町は、ホテルやコウノトリに代表される豊かな自然と、「大谷焼」や四国遍路の一番札所、二番札所をはじめとする伝統文化や歴史ロマンのあふれる町であるが、**地域の魅力PRや、住民の伝統文化への関心低下、地域活動の担い手不足などが課題**となっている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【公民館を核とする地域PR活動・地域活性化イベント】

大麻町では、**四国遍路の文化に育まれた「お接待の心」「おもてなしの心」を体現した**、地域を盛り上げるイベントが活発に行われており、堀江公民館は、生涯学習及び地域活動の拠点として、イベントの準備や運営の一翼を担い、地域振興に貢献している。

○ ジングルベルマラソン

現在まで連続29回実施し、年末の恒例イベントとなっており、県内外より、1,000人以上のランナーが「大麻町」に集まる。鳴門市堀江公民館では、地域住民のボランティアによる参加者受付や、完走後のランナーへあめゆ、豚汁等の「お接待」を行う。**住民の健康づくりや、地域の魅力発信**につながっている。



ジングルベルマラソン

○ 大谷焼窯まつり

毎年11月に開催される大谷焼窯元合同の陶器市。鳴門市堀江公民館では、地域住民がまつりの準備や来場者に振る舞われる寿司やうどん等の調理等を行っている。イベントには県内外の多くの方に参加いただいております。大谷焼きの直売や体験を通じて、**地域の伝統工芸品のPRや地元住民にとっての魅力の再発見**につながっている。



大谷焼窯まつり

3. 取組による成果や効果

イベント参加者はもちろん、地域住民やボランティアにも、大麻町の自然、文化、歴史のすばらしさを発見してもらうことができ、**地域の魅力発信や伝統文化の継承**につながっている。

また、イベントは各地域活動団体によって運営されていることから、活動を通じて団体間の連帯が強まり、他の活動においても連携して取り組むことで活性化につながり、地域課題の解決に向けての大きな原動力となっている。

○ 不法投棄パトロール

ホテル祭りも開催される大谷川は周囲を山に囲まれ、自然が豊かである一方、不法投棄が後を絶たない。このため、年に3回、大がかりな不法投棄パトロールを実施しており、この際、普段の活動で培った団体間の連携が生き、広範囲での実施につながっている。



不法投棄パトロール

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

○自治会関係者、学校関係者、社会福祉協議会委員、人権教育推進協議会委員などで構成する公民館運営審議会を年1回開催。現状や課題について議論し、検証、改善に努めている。

○参加者や地域住民、ボランティア等のイベント関係者の意見・感想を参考に、今後の運営方法を検討し、ニーズに即したイベントとなるよう努めている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

館職員と利用者の距離を縮め、利用者が公民館に対する意見を言いやすい環境を作りながら、利用者との協議を綿密に行い、利用調整等をスムーズに行える体制を築いている。



活動風景

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

遍路文化、交流文化、地域のものづくりや農業文化の継承につながる取組を行う。ボランティア活動の推進とまちづくり、地域づくりの推進を図る。



コスモスまつり



おたのもさんと百万遍



歩け歩けふれあい大会

公民館の沿革・年表

- ・昭和47年 旧西条市に公民館が設置される
(橋・禎瑞地区公民館として活動)
- ・昭和49年 禎瑞地区公民館として独立
- ・昭和54年 禎瑞地区公民館新築
- ・昭和60年 第1回禎瑞文化祭開催
- ・平成6年 第1回歩け歩けふれあい大会開催
- ・平成28年 放課後子ども教室開講

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- 「おたのもさんと百万遍」の様様
令和2年7月の行事の様子。共楽会メンバーの指導により、思い思いの「おたのもさんづくり」を楽しんだ。
- 「歩け歩けふれあい大会」の様様
令和2年2月の行事の様子。あいにくの雨模様だったが、多くの方の参加があり、会話のはずむ楽しい大会となった。

1. 都道府県名	愛媛県	3. 公民館対象人口	1422人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	西条市	4. 建物設置年月日	昭和54年12月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1774人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 4421人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 284人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 6,479人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (公民館協力委員会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (地域の中心部にあり、子どもから高齢者まで、気軽に利用しやすい)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (禎瑞連合自治会、禎瑞保育所、禎瑞小学校、西条西中学校、禎瑞連合自治会、禎瑞共楽会、西条市社会福祉協議会禎瑞支部、交通安全協会禎瑞支部、民生児童委員、西条市教育委員会)				

西条市禎瑞公民館

OPEN 8:30~17:00

TEL 0897-57-7274

HP <https://www.city.saijo.ehime.jp/soshiki/syakaikyoiku/teizui-index.html>

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 少子高齢化が進み、公民館事業参加者の多くは高齢者である。
小学校・児童クラブが隣接しているため小学生の来館はあるが、メンバーは固定されがちである。
- 自然災害の影響を受けやすい土地であり、とくに浸水の被害が大きくなることが予想される。
過去には洪水や堤防決壊、大地震による地盤沈下の記録が残っている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【おたのもさんと百万遍（伝統文化継承活動、世代間交流）】

少子高齢化や生活様式の変化から、伝統文化の継承が難しくなってきた。「おたのもさんと百万遍」も古くから伝わる行事を子どもたちに知ってもらおうと始まり、毎年夏に開催している。禎瑞小学校から3年生が参加し、共楽会（老人会）のメンバーから行事の由来や上手な作り方を教わる。この日の昼食は社協禎瑞支部により用意され、こちらも由来ある大きなおむすびを、参加者全員でいただく。



百万遍

【歩け歩けふれあい大会（健康づくり、防災、世代間交流、環境保全）】

平成6年にスタートした事業で、令和2年度に27回目を迎えた。健康増進と住民間の交流を図る。コースを自分の足で歩くことで区内を改めて知り、また、避難経路の確認など、防災への意識づけもねらう。終了後には参加賞やおいしい食事もあり、どの世代にとっても「楽しく、ためになる」事業を目指している。



歩け歩けふれあい大会 スタート

3. 取組による成果や効果

【おたのもさんと百万遍】

- 伝統行事について高齢者から子どもたちに直接伝える機会ができた。
- おたのもさんづくりや昼食をともにし、異世代とのふれあいが生まれた（令和2年度は新型コロナウイルスの影響により飲食なし）。

【歩け歩けふれあい大会】

- 名所・旧跡をめぐるコースでふるさと禎瑞を改めて知り、地域に関する学びになった。
- チェックポイントにクイズを設置することでゲーム性があり、参加者みんなが楽しめる行事になっている。ゴミ拾いをしながらのウォーキングは環境美化にもつながった。
- 公民館をあまり利用しない世代の参加者も多かった。



若者世代も多数参加

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 自治会や地域の団体、学校の関係者で構成する公民館協力委員会を年間2回開催（10月・2月）。
公民館事業の計画や実施状況を報告し、より良い公民館活動を目指して協議する。
- 教室や講座では、今後改善する点はないか、参加者の声にも耳を傾ける。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

新しいことに目を向けながらも、地域の歴史や継承が難しくなっている行事等を廃れさせないようにしたい。

地域や関係団体の協力なくしては公民館の運営は難しいという意識を持ち、お互いに支え合い、助け合うことができるような良好な関係性を築かなければならない。



防災訓練は各団体と連携して

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

年齢を問わず、地域住民の集いの場となる公民館づくり。

各団体と連携を深め、子どもや若者等の地域の担い手が育つような活動をしたい。



児童を対象にした事業（ケーキづくり）

豊かな心で地区住民とともに歩む

西予市中筋公民館



中筋郷 世界一の大門松 (20.21m)

公民館の沿革・年表

- ・昭和28年 中筋公民館開設
- ・昭和30年 野村町に合併
- ・昭和56年 中筋公民館新築
- ・平成16年 西予市に合併
- ・平成27年 小学校閉校・幼稚園閉園

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

「大門松づくり通して『世界一』を手作りで」。平成29年度から地域住民総出で取り組む大門松事業を展開している。実施初年度 (H29) はライトアップイベントを実施。地元小学生による浦安の舞や合唱等も披露された。2年目はダンスフェスティバルを実施。3年目は空中行灯を設置。そして昨年度は竹あかりを配置し、大門松を神々しく照らした。大門松は次年に合わせ毎年1cmずつ高さを更新している。今年は20.22mの高さを予定。大門松付近の装飾についても年々進化している。

1. 都道府県名	愛媛県	3. 公民館対象人口	709人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し	
2. 市区町村名	西予市	4. 建物設置年月日	昭和56年8月22日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	—	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1568人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3209人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 264人	合計	5,041人	
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 2人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <small>(職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)</small>	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 自由記述 ()					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	野村保育園、野村幼稚園、野村小学校、野村中学校、中筋地区自治振興会、中筋愛護班、中筋老人クラブ、中筋婦人会、西予市スポーツ協会野村支部中筋分会、西予市	

西予市中筋公民館

OPEN 8:30~22:00 H P
TEL 0894-72-0801 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

平成27年3月末をもって、地区の核の一つである**小学校と幼稚園が閉校・閉園**した。地域から子どもの声が消え、「さみしくなった」と言う声をよく聞くようになった。また、若者は利便性を求め地区外へ引っ越し、**地区離れが進行**している。西予市が推進しているジオパークのような名所もなければ、秀でた特産品もない。「無いものはない」「中筋では何をやってもダメだ」と**諦めムード**が漂いはじめた。どうすれば人が集まるのか、地区が活性化できるのか、有名にできるのか等、地区住民との話し合いを幾度も重ねた。そして「中筋地区を知らしめる事業（通称：**世界一の大門松事業**）」の実施に至った。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【中筋地区を知らしめる事業（地域振興や地域的課題解決に向けた取組）】

「**世界一の大門松事業**」と銘打ち、地区住民がそれぞれの立場で、主体的に関わることを念頭に置き事業に取り組んだ。ご高齢の方は菰編みや大しめ縄づくり、ご婦人の方は装飾用の葉牡丹の定植、青年の方は竹切と門松制作の作業、子ども達はライトアップイベント時の行灯制作を担当した。また、当地区の4集落すべての山から竹を切り出し、大門松に寄せる思いをひとつにした。**自らが参加し、手作りで「世界一」を作り上げる**ことにより、**地域愛**は深まったと考える。

事業実施期間は帰省客の多い時期であり、帰省客も**地域愛**を深められたと考えている。平成29年度に実施した、ライトアップイベント時には特産品であるこんにやくと豆腐の試食会を実施。PRにもつなげた。

＜次期地域リーダーの育成＞

地区住民が**主体性**をもって活動に取り組むことが課題であった。初期段階では、実行委員自らが動く（作業をする）姿を示すことからはじめた。また、作業と並行して各種団体の集会等に赴き、事業への参加を促した。「地区のために動いてくれているなら」と、徐々に各種団体からも賛同が得られるようになった。現在では「いつから動き始めたらいい？」と、主体的に活動しようとする姿が見られるようになった。



高齢者による菰編み



各地区での竹切作業

3. 取組による成果や効果

- 事業が軌道に乗り、恒例行事化してくることで、地区住民の中に意識の変化が見られはじめている。
- 財源については事業開始当初の3年間は西予市の交付金を活用していた。現在は、**自主財源のみ**で実施している。家庭用、事業所用の門松を製作・販売し、その売上げを財源に充てており、**新たな産業**も創出した。
- 会期中は、市内外より約1,000人の来場者があり、**地域活性化の一助**となっている。
- 協働制作は、**次期リーダーの育成**にも貢献している。自らの意思で進んで作業に参加する地区の住民も増え、「**責任感**が沸いてきた」との発言も聞かれるようになった。



平成29年度ライトアップイベント

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 実行委員会形式を組織し、反省点や改善点を協議している。（年5回程度開催）
- 実行委員会での協議結果を拡大実行委員会で発表し、各種団体からも様々なご意見を出してもらっている。
- 実行委員会及び拡大実行委員会終了時には懇親会を実施し、会員相互の理解を深め、事業発展のための思いや願いを共有している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「**地区の声を聴くこと**」「**地区と共に**」を**第一**に考え、公民館業務にあたっている。当館は、社会教育分野においても地区団体と**協力**し事業を推進してきた。また、地域づくり分野においても、地区振興会と**協働**し事業を推進している。地区の声を聴き、その声を事業に反映させることにより、当地区が活性化するものと考えている。



地区住民とともに大門松制作

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

令和5年度から開設される**地域づくり活動センター**の設置に向け、目指すべき活動センター像を地区住民と協議していく必要がある。少子高齢化が進む当地区にとって、活動センターは重要な位置づけとなる。地区住民の願いを叶え、地区の活性化を図り、当地区の未来を拓くことのできる新たな活動センターを、地区住民とともに作り上げていきたい。



大門松に想いを込め



豊岡地区体育祭



放課後子ども教室

公民館の沿革・年表

- ・昭和53年 豊岡地区公民館開設 第1回豊岡地区体育祭開始
- ・昭和58年 第1回豊岡地区実践発表会開催
- ・平成11年 高年者学級、家庭教育講座開講
- ・平成14年 大分県優良公民館表彰 受賞
- <放課後子ども教室の活動について>
- ・平成16年 児童保護者からの要望により「公民館開放事業」開始（文科省「地域子ども教室推進事業」活用）
- ・平成19年 「放課後子ども教室」として運営開始
- ・平成26年 夏休み子ども教室開校 子ども発案による事業の取組
- ・平成28年 親子行事（しめ縄づくり・もちつきなど）の取組開始
- ・平成29年 高齢者施設への訪問等の活動開始

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 豊岡地区体育祭
体育祭は、昭和53年にはじまり、現在まで45回を数える。毎年500名程度が参加し、地区民交流の場として親睦を深めるとともに、連帯感の醸成に貢献している。
- 放課後子ども教室における芋植え体験
平成26年より、芋植えを行い、育て、収穫し、食べるまでの一連の活動を通して、感謝の心を育てるとともに、土に触れ収穫する喜びを提供している。

1. 都道府県名	大分県	3. 公民館対象人口	7000人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	日出町	4. 建物設置年月日	昭和56年3月10日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	-
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 6273人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 7584人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 3060人（放課後子ども教室180日×17人）				合計 16,917人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 14人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 17人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（バリアフリー化、駐車場の完備による利用者利便性向上とマルチ避難対策）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 豊岡幼稚園、豊岡小学校、豊岡地区婦人会、豊岡・南端地区老人クラブ連合会、株式会社エリア、豊岡地区放課後子ども教室、日出町スポーツ少年団、子ども会等				

日出町豊岡地区公民館

OPEN 8:30~22:00 H P -
TEL 0977-72-8008 SNS -



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 現代社会において少子高齢化、価値観の多様化、個性の尊重、連携意識、帰属意識の希薄化など多くの課題があるが、豊岡地区においても同様であり、これらの課題を解決するため、人と地域社会を結びつける公民館をめざし、自治公民館と連携して「子どもに夢を、大人に希望を、地域に和を」をテーマに地域総ぐるみで活動に取り組んでいる。
- 近年、地区行事への参加者は高齢者が主体で、若者世代の参加者が少なく世代間交流の低下が懸念されていることから、子どもを媒体としたつながりづくりをめざして公民館活動を展開することにより、保護者や家族も地区への関わりの糸口ができ、自然と交流の輪が広がっている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【豊岡地区体育祭】

体育祭には自治会単位で毎回約500名程度が参加し、地域住民の声をききながら、誰もが参加できる多彩な競技種目を取り入れている。また高齢者の負担軽減から午前中開催としており、絶好の地域交流・親睦の機会となっている。スポーツを通じ、住民相互の親睦を図るとともに、連帯感及び帰属意識の醸成につながっている。



豊岡地区体育祭

【豊岡放課後子ども教室】

小学校1年生から6年生（登録児童約30名）の児童を対象に、放課後の見守りと居場所づくりとして地域住民の参加を得て、宿題や遊びをはじめ、季節の伝統行事（毎月1～2回）などを取り入れて毎日活動している。子どもたちは、同世代・異学年の子ども・異世代の大人とかかわり、社会性、自主性、創造性などの豊かな感性を育み、地域住民（大人たち）は、指導者やボランティアとして、豊富な経験等を活かせる場を得ることで、生きがい・やりがい・希望の創出につながっている。



放課後子ども教室（柏餅）

【豊岡地区「地域と学校つなげレター」】

地域から子どもの姿が薄れ、子どもの夢の実現に向け地域で支え応援する機会が減少する中で、豊岡地区の子ども会は、各敬老会イベントで出し物を披露していたが、コロナにより敬老会イベントが中止となった。そこで令和2年度から、子どもと高齢者を手紙でつなぐ交流活動を行っている。令和3年度は1年生から3年生までの児童に手紙を書いてもらい、老人クラブから多くのお礼の手紙をいただいた。手紙の贈呈式は新聞にも掲載され、地域に元気と希望を与える活動となっている。

3. 取組による成果や効果

（1）豊岡地区体育祭

- 地域間・世代間交流により、自治会内や自治会間の共生・連帯意識の薄れが解消され、地域としての絆が深まった。
- 住民同士の顔の見える関係が構築され、災害時及び防犯など自助・共助の意識が芽生え、地域防災力の強化につながっている。

（2）豊岡放課後子ども教室

- 子育ては、家庭、学校、地域、社会の役割があり、地域の大人との関わりで地域を知り、地域に対する愛着を深めている。子ども達にとっては、地域の文化・伝統に触れ、郷土愛が芽生えることで、「自慢できるふるさと」を発見するとともに豊かな人格形成に繋がるものと確信している。
- 子ども達が媒体となって、婦人会をはじめとしたボランティアの大人達の生きがいづくりにつながり、「大人の希望」の実現や「地域の和（輪）」づくりが広がっている。



放課後子ども教室（施設訪問）



放課後子ども教室（親子もちつき）

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

（1）ふりかえり

各行事終了後は、企画・運営事務局内、公民館運営審議会、自治公民館連絡協議会など各組織ごとPDCA方式による「ふりかえり」を実施し、問題点及び課題を次回開催に確実に反映させている。

（2）地区民からの意見の汲み上げ（パブリックコメント）

一般参加者等からの意見提出の機会として、貸館・サークル活動により来館する利用者に対し、行事に対する感想を尋ねるなど、改善点について情報収集し、一つでも改善し、創意工夫を図っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「公民館は利用者第一主義」

公民館職員と地域住民は対等であり、自然につながっていくことが大切であると考えている。しかし前提として、公民館は「集う、学ぶ、結ぶ」施設であることを忘れてはならない。そのうえで環境整備をはじめ利用者への気遣い、思いやりの精神をもって気持ちよく施設を利用していただくことを心得としている。これによって、人との絆・和を育むことができると確信している。



交歓キャンパ（玖珠町との交流）

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

「今、公民館に期待される役割は何か？」を考えると、人が生きる上において大事な要素を再確認する場を提供したいと考えている。その第1は、「人と人の繋がり」である。人を繋げるにより、大きな力となり地域力を高め、より良い人間社会の構築に寄与できると考える。第2は、「全世代に『夢』を与えること」である。高齢化社会にあって『夢』は、健康寿命の特効薬である。高齢者をはじめとした大人に豊富な経験、知的資源を生かす機会を与えることを考えていきたい。



高年者学級

～ 地域に寄り添う村づくり ～

宇検村生涯学習センター



歴史民俗資料室の様子



今年度新設される村文化財保管庫

公民館の沿革・年表

- S46 中央公民館建立
- S46 公民館講座開講
- H16.11.16 宇検村生涯学習センター建立
- R3.3.19 ネットワーク設置
- R3.5.1 文化財等物置施工開始
- R3.6月中旬 文化財等物置完成予定

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

宇検村生涯学習センターは、複数の施設が併設されている複合施設であり、年間を通して多くの来場者がある。左記写真は、今年度6月中旬完成予定の村文化財保管庫の様子である。保管庫を建立することで、より適切に長期保管することができるようになった。また、観覧スペースやビデオ視聴スペースが増えたことにより、団体客等の応対もスムーズに進めることができるように改善された。

1. 都道府県名	鹿児島県	3. 公民館対象人口	1682人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	宇検村	4. 建物設置年月日	平成16年7月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	22台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (〇〇地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 961人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3291人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,849人	合計	6,101人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 7人	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 7人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述 ()	<input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (宇検村教育委員会, 歴史民俗資料館, 図書室, 宇検消防分駐所)	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他	村内各小・中学校, 宇検村役場, 宇検村連合青年団, 宇検村子ども会育成連絡協議会, 宇検村地域女性団体連絡協議会

宇検村生涯学習センター「元気の出る館」

OPEN 8:30～17:15 H P <http://www.uken.net/shougaigakushu/shisetsu/kyoiku/028.htm>
TEL 0997-67-2261 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

○新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着かず、多くのイベントが中止となり、**村民に元気がないように感じた**昨年度の状況を受け、今年度は、行政職員として職員全員が状況の変化にも柔軟に対応し、村民の方々と共に動き続けてきた。行事やイベントを「即中止」にするのではなく、他市町村の意見を参考にしながら**感染防止策を徹底し、「公民館講座の開講」や「貸し館（生涯学習センター）」の開放、新事業の開始等を試みた。**新型コロナウイルス感染症を否定的に捉えるのではなく、現状を真摯に受け止め、寄り添っていく必要があると考えて取組を行っている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

1.【令和3年度やけうちっ子環境学習世界自然遺産博士講座】（新事業）

令和3年6月末～令和4年2月までの年9回、宇検村立阿室小・中学校の岩切教諭を軸に実施予定。教育委員会事務局職員がイベントの周知や送迎バスの運行等を行う。村内の児童生徒、保護者、教職員及び一般の方々が対象で、宇検村生涯学習センター「元気の出る館」を中心に村内全域が学びの場となる。次世代の宇検村や奄美、ひいては日本、世界の持続可能な社会の創り手を育成するための環境プログラムである。「リュウキュウアユの保護活動」や「湯湾岳自然観察会」、「奄美の島口・島唄教室」等を題材に開催予定である。



環境教育ゲームの様子

2.【図書電算処理システム事業】（新事業）

令和3年7月から開始される図書電算処理システムは、図書カードにより図書の管理を行っていた作業から、蔵書の検索等、利用者の利便性を意図してバーコード読込によるシステム管理へと移行するものである。6月1日から作業員4名で、1万冊を超える図書にバーコードを貼り付けたり、長期間借用のない図書の仕分けを行ったりする等、導入に向けた作業を着々と進めている。



システム開始に向けた準備

3. 取組による成果や効果

1.最後のプログラムでは、学んだことを人前で披露する成果発表の場を設け、身をもって成果を体感することで、**学習意欲の高揚を図ることができる**と考える。小さな島のコミュニティの中で、島の良さが口コミや様々なメディアを通して広がり、**宇検村を情報源として、島全体をPRできる事業である。**
2.システムを導入することにより、1万冊を超える図書の蔵書点検を効率的に行うことができ、図書の貸出・返却時にバーコードの読込みも可能となる。また、探している図書を検索することも可能なため、利便性が上がり、利用者の増加が期待できる。図書室に職員が常駐することにより、電子機器に不慣れな方や高齢者への対応も十分に行っていく。



ラベル貼り作業

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 公民館運営審議会において、公民館行事及び事業について審議している。
- 職員内で必要性を十分に審議し決定する。
- 出入り口に非接触型（サーモグラフィ）検温器及び非接触型消毒液を設置し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

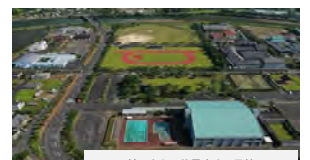
新事業を始めようとしている今年度は特に、村民の方々の理解やその他協力団体等の援助により成り立つことが多いと再認識している。これからも昨年度同様、**職員全員が「村民及びその他利用者のことを第一に考える」ことを常に意識しながら公民館を運営していく。**



生涯学習センター元気の出る館

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

○新型コロナウイルス感染症の影響でWeb会議が主流になってきたため、約300名を収容できる公民館の大ホール舞台裏に有線のWi-fi環境を設置し、用途を増やすことができた。このように、**様々な環境の変化にも随時対応しながら、利用者のニーズに可能な限り応えられる公民館であり続けたい。**



村の中心に位置する公民館



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 市立図書館や市立科学館、市営プール、勤労青少年ホーム、勤労女性センター、法務局、税務署等の公的施設が近くにあり、教育関係施設や官公庁等と連携を図りやすい立地条件にある。
- 収容台数の多い市営の駐車場が隣接しており、市民の利用者が多い。
- 鹿児島市手をつなぐ育成会(社会福祉法人)と連携している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

- 近隣施設や各種団体と連携した講座の開設
税務署や法務局、司法書士会といった近隣の関係機関と連携した講座「暮らしに役立つ税教室」、「知って得する法律入門」、「消費者トラブル対策」などを実施している。
また、各種団体とも連携している。鹿児島市手をつなぐ育成会と連携した「鴨池すくすく学級」(特別支援教育)、日本健康麻将協会と連携した「いきいき健康マージャン入門」、鹿児島大学留学生を講師とした「鴨池から世界へ！留学生とふれあおう」などを開設して、幅広い学びの機会を提供している。
- 自主学習グループの育成
自主学習グループ連絡会を組織し、総会、公民館との共催で行う「ソフトバレーボール」、「レクリエーション」、「グラウンドゴルフ」などのスポーツ大会、地域総合文化祭や新春書き初め大会などの文化に関する行事を開催している。実行委員は各自主学習グループの会員から選出され、行事運営にあたっている。
- 地域との交流
地域総合文化祭では、管内中学校の吹奏楽部によるオープニングや幼稚園、保育園による舞台発表、各コミュニティ協議会の女性学級や家庭教育学級による展示発表を行い、地域を上げての交流と学習成果の発表の場となっている。



知って得する法律入門



管内中学校による文化祭オープニング

3. 取組による成果や効果

- 高齢者の講座応募率が上がってきており、講座の受講したことを契機に、自主学習グループへの入会による学習の継続と新たな分野への学習を促す機会になっている。
- 自主学習グループと公民館の共催行事には、管内の保育園・幼稚園や小中学校、高校からも参加があるなど、幅広い年代による交流の機会となっている。活動を通してリーダーの育成や主体的な活動の促進も図られている。
- 総合文化祭などの行事は自主学習グループや社会学級にとって、学習の成果を発表する貴重な機会となっている。発表者は活動を継続していく意欲を高め、観覧者は教養を深めるなど、地域づくりに寄与する部分が大い。

講座の全応募者に対する高齢者の割合(%)

H27	H28	H29	H30	R1	R2
48.9	49.4	49.3	53.0	44.9	56.3



幅広い年代が参加したスポーツ大会

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学校関係者、社会教育関係者、家庭教育関係者、学識経験者9人で構成する公民館運営審議会を年2回開催し、諮問事項について得られた意見を事業改善に生かしている。
- 事業ごとに参加者へアンケートを実施するとともに、自己点検・自己評価を行い、これらの結果を踏まえたPDCAサイクルによる公民館運営を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 市民の多様なニーズに応えるために、関係機関との連携を図り、専門性を生かした講座を開設することで、わかりやすくレベルの高い満足のいく講座を実施したい。
- 人権教育を推進するために、人権啓発を意識した事業や講座の実施を心がけている。また、合理的配慮の視点から講座を見直し、障がいのある方や家族への支援に努めている。
- 新しい自主学習グループの設立やグループ会員増につながる魅力ある講座の実施に努めている。



人権問題研修会（アイスブレイクの様子）

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 周辺施設と連携をさらに深め、地域の教育的資源を活用した鴨池地域ならではの魅力ある行事の企画や講座内容の充実を図る必要がある。今年度より実施する「ぶらりかもいけ」では、地域の史跡、地域の人材を活用し、地域のよさの再発見につなげる。
- 社会的ニーズの高いICT関係の講座は「シニアのためのスマートフォン講座」を初級編と活用編に分けるなど、一層の内容充実を図る。
- 館内の掲示板に学習成果を展示したり、公民館だよりで活動の様子を伝えたりして、生涯学習のきっかけづくり・自主学習グループ活動の活性化を図る。





地産地消の学びの館



今日の見守りは校長先生

公民館の沿革・年表

- ・平成14年 東地区学習センター開館
- ・平成14年 グラウンドゴルフ大会の開催
- ・平成14年 生涯学習発表大会の開催
- ・平成15年 高齢者大学の開設(高齢者の学び支援)
- ・平成17年 大隅地域高校美術展の開催
- ・平成18年 つどいの広場「ひよこ」開設(子育て支援課)
- ・平成25年 学校応援団活動(児童生徒の学び支援)
- ・平成29年 鹿屋寺子屋の開設(東サンサン塾)
- ・平成30年 鹿屋寺子屋の開設(寿北ランラン塾)

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- 大隅産の集成材で建てられた学びの館
市民の教養の向上及び健康の増進、並びに集会や学習活動等に利用できる供用施設である。館は、床や壁、そして、柱や梁に木材が使われており、フィトンチッドに満たされた環境の中で、充実した活動が日々展開されている。
- 鹿屋寺子屋事業
学習活動の支援や地域のことを知る活動、地域の方々との交流活動等を実施している。講師の先生に加えて、児童・民生委員さんや地域の方々が見守りに来てくださる。

1. 都道府県名	鹿屋島県	3. 公民館対象人口	22,367人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	鹿屋市	4. 建物設置年月日	平成14年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 12,507人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 15,095人 (<input type="checkbox"/> ロビー利用・図書室利用)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 4,441人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,863人	合計	33,906人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 3人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (鹿屋寺子屋事業)	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (近隣に高校等の教育機関が多く、学校帰りや休日・祝日の利用者が多い。)	<input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (子育て支援課の「つどいの広場」を設置している。)	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他	鹿屋市役所各課、鹿屋市立寿小学校・寿北小学校・笠野原小学校・鹿屋東中学校、国立鹿屋体育大学、国立大隅青少年自然の家、日本赤十字社鹿屋島支部

鹿屋市東地区学習センター

OPEN 8:30~22:00 H P
TEL 0994-31-1190 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 幼・少年期、青年・壮年・中年期、高齢期、それぞれに応じた学びの機会と場所が必要である。
- 農耕地の宅地化・商業地化が進み、居住する人々の入れ替わりが頻繁で、連携が希薄になりつつある。
- 市民講座や短期講座等の申込者数が、常に募集者数を超えている。また、開設当初から実施しているグラウンドゴルフ大会や生涯学習発表大会は年を追うごとに盛況になっている。生涯学習発表大会には、市民講座や同好会等で学ぶ100団体、延べ1,000人程の参加がある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【キャッチフレーズ】（配布物等に目標を掲載し、共通認識・共通実践を目指している。）

実践目標…育もう家庭のぬくもり 高めよう地域のきずな ひろげよう人の和
態度目標…気づき 考え 実践する

【具体的な取組】

● 生涯学習推進協議会の活性化

13の町内会や児童・民生委員会等の各種団体、4つの小・中学校の代表との連携を密にするとともに、地区内の活動状況について当センターだよりに掲載して広報に努めている。

● 市民講座・短期講座・同好会の多様化

来館者への声かけに全職員で取り組み、交流の深化に努めている。また、収集した情報を積み重ね、次年度の講座の開設等に役立てている。特に、同好会の結成に関しては、同種目で複数団体の結成も視野に入れ、学習機会の提供と参加者の増加に努めている。

● 関係機関・団体との連携

主催行事や各講座・同好会等の活動に際して、関係機関等を積極的に活用し、学習内容の深化・多様化を図っている。また、学校等からの講師派遣要請については、受講生や同好会に依頼するなどして活躍の場を提供するとともに、地区内の関係団体との交流を図っている。（地域学校協働活動 1行事1外部講師）



会議後の情報交換



外部講師の活用

3. 取組による成果や効果

【各種団体との連携や広報活動による成果・効果】（館は町内会・学校のセールスマン）

- 館内活動の活性化…同好会・市民講座受講生が「ロビー等に作品を掲示したい」「新たに同好会を立ち上げたい」等の申し出
- 町内会活動の活性化…「子ども食堂を始めた（女性団体）」「子ども用のプールでマス釣り大会をした（消防組織）」等の情報の共有と発信
- 地域学校協働活動の活発化…「私も読み聞かせに参加したい（高齢者大学生）」「全ての学級で体幹づくりの授業の補助をお願いしたい（小学校）」等の依頼
- 地区に関する情報の提供…文化財・産業・地産地消等



地域活動の創造

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 生涯学習推進協議会の総会と4つの部会での行事立案・実施における意見交換や実施後の検証(次年度へ)
- 市民講座・短期講座の開設に関する参加者や講師の要望の把握、活動日誌に記載された指摘事項の分析と改善
- 地域学校協働活動(学校応援団)に対する参加者や学校からの要望の把握と次年度に向けた改善
- 来館者や電話・ハガキ等による要望についての検討(日々のPDCA)

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

● 鹿屋市では、6年前から全ての公立小・中学校が「青少年赤十字」に加盟して、「気づき 考え 実行する」の態度で自己研鑽や奉仕活動に取り組んでいる。この少年期の学びの態度を、全ての年代の学びの態度に取り入れ、「当たり前を、当たり前」「教えることは、学ぶこと」「見守られる立場から、見守る立場へ」の実現を目指して館の運営に努めている。



地域学校協働活動

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 館のギャラリー化…学ぶ場を提供すると同時に、新たな学びを外部(高校・NPO法人・地域企業)から取り入れたり、学び発表する機会を広く提供したりして学びの質と学びへ意欲を高める。
- 現在のニーズに対応した館の運営…「子ども夢基金」や「地球温暖化対策助成事業」を活用した活動を展開して、情報化社会や持続可能な開発目標(SDGs)に取り組む。



作品展示の日常化

みんなをつな(綱)げる地域のセンター

与那原町コミュニティーセンター



与那原町キャラクター つなひきか



放課後子ども教室舞台発表

公民館の沿革・年表

- 平成9年4月 与那原町中央公民館としてオープン
- 平成9年6月 本館1階の町立図書館が開館
- 平成16年4月 きら☆きり放課後子ども教室開設
- 平成17年4月 事務室を教育委員会生涯学習振興課の執務室として利用開始
- 平成25年 与那原町コミュニティーセンター利用団体連絡協議会発足
- 令和2年度 新型コロナで臨時休館が続き大幅に活動自粛

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

(左上の図) 与那原町は沖縄三大大綱引の一つで440年余の歴史のある「与那原大綱曳」が行われており、町民の団結と融和の象徴となっている。そこから本町では「つながる」を「綱がる」と表現しており、イメージキャラクターも大綱曳をモチーフにした「つなひきかちゃん」が町民に親しまれている。
 【左写真】きら☆きり放課後子ども教室の最終成果発表会の様子。「公民館まつり」と「子ども会まつり」も同時開催となっており、多くの方が発表を見る。教育長や校長先生からも激励の言葉を貰い、最後には児童から講師へ感謝状の贈呈を行う。

1. 都道府県名	沖縄県	3. 公民館対象人口	20088人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	与那原町	4. 建物設置年月日	平成9年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	10台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 10人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 20000人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 3,000人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 12000人 (コミュニティスペース利用者60人×200日)			合計	35,010人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 3人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人)			合計	4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (子ども育成連絡協議会、与那原町女性会、与那原町青年会)				

与那原町コミュニティーセンター

OPEN 9:00-22:00

H P <http://www.town.yonabaru.okinawa.jp/manabi/syougai/index.html>

TEL 098-835-8220

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

与那原町は埋立開発により商業地を含む新興住宅地が形成され、新しい住民や世代に、沖縄県三大綱引き「与那原大綱曳」をはじめとする町の歴史的・伝統的文化をどう傳承するか等、旧来の風習を大切にしている住民や高齢者との交流も従来からの課題であった。また、急激な人口増加に伴い公立小・中学校の教室が不足するとともに、児童・生徒の放課後の居場所づくりも喫緊の課題となっていた。そこで、小学校に近接する当センターが放課後の子どもの居場所として、放課後子ども教室推進事業を行うことになり、地域の伝統・文化や人材との連携・協働を図りながら子ども育成事業の取組を推進することにした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【地域人材を活用した子ども育成事業（地域学校協働活動）】

- ・平成16年に「きら☆きり放課後子ども教室」を開設し、子どもをただ預かるだけの場所ではなく、年間を通した講座や体験学習を行っている。その内容は、三線や琉球舞踊、しまくとぅば（沖縄各地域の言葉）教室など、伝統芸能をテーマにしたものを多く開設している。
- ・当センターでサークル活動をしている団体と2年間話し合いを重ね、平成25年に「与那原町コミュニティセンター利用団体連絡協議会」を発足し、「公民館まつり」や「生涯学習大会」、年末大掃除会を行っている。その活動を通して、地域人材の情報が集約でき、放課後子ども教室の講座や体験学習の講師として活動してもらうことに繋がった。
- ・講座や体験学習では、講師のほか補助員としても地域の人に入ってもらい、子ども達ができるだけ多く人と接する機会を創出している。また、年度末に発表会を設け、講師へ感謝状の贈呈を行ったり、町内の小中学校の校長先生を来賓として招待し感想をもらっている。
- ・放課後子ども教室のほか「与那原町平和の日・慰霊の日」展示会や与那原大綱曳で披露される衣装を展示・試着する「与那原大綱曳支度衣装展」では、町の小中学校の平和学習や総合学習等で利用されている。
- ・子ども会育成連絡協議会と連携し「子ども会まつり」や「七夕まつり」を開催しジュニアリーダークラブが中心となり募金活動も行っている。



放課後子ども教室 舞台発表の準備をする



子ども会まつり

3. 取組による成果や効果

- ・「与那原町コミュニティセンター利用団体連絡協議会」で個々のサークルが繋がり、有機的な情報網ができ、特に高齢者の経験や能力が資源だと意識され活用されるようになった。
- ・年度最後に発表会を設定していることで、講師や子ども達のモチベーションが高く維持でき、感謝状の贈呈により深い絆が生まれている。また、学校外での活動を校長先生に褒めてもらえることは子供達の自己肯定観の醸成にも繋がっている。
- ・放課後子ども教室の開設で、働く保護者の負担軽減となるばかりでなく、顔馴染みのある大人が増え、双方ともに声かけしやすくなった。犯罪や非行等から子どもが守られ、安全対策の要となっており、地域全体で子どもの健全育成に取り組むようになった。



放課後子ども教室 キッズクッキング

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・年2回開催している与那原町コミュニティセンター運営審議会において、放課後子ども教室事業の講座内容等について審議されたことを受け、次年度の活動に反映させるなどPDCAを生かした取組となっている。
- ・「与那原町コミュニティセンター利用団体連絡協議会」総会等において、意見を聴取し取組の改善を図っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

与那原町コミュニティセンターは、本町の中央公民館でもあるので各種サークル活動も活発に行われている。また町主催の事業なども多く行われており、町内全域のみならず町外からも多くの利用者が訪れる。全ての利用者の交流の場として、いつでも気軽に訪れ、職員に声をかけ、何でも相談することができる親しみのある施設になるよう心掛けている。



文化フェスティバル展示

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

子ども育成事業のほか、高齢者の学びの場であるシニア学園の支援も行っている。これからも『町民の「やりたい」を形にできる施設』をスローガンに掲げ、地域の生涯学習・社会教育の拠点として、様々な団体と協働した活動を継続していきたい。特に地元企業と連携した取組を企画し展開していきたい。



長寿学園講座



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

文部科学省HP

公民館の振興についてはコチラ⇒

